

令和7年度 諏訪市環境審議会 委員名簿

(敬称略、順不同)

	団体名等	役職等	氏名	備考	委嘱期間 開始日	委嘱期間 最終日
1	国立大学法人信州大学	教授	ミヤハラ ヨウイチ 宮原 裕一		R6. 4. 1	R8. 3. 31
2	中部電力パワーグリッド株式会社	松本支社地域サービスG	コヤマ マサミ 小山 雅美		R6. 4. 1	R8. 3. 31
3	一般社団法人長野県環境保全協会 諏訪支部	事務局	クサマ ヨキコ 草間由紀子	新任	R7. 5. 1	R8. 3. 31
4	岡谷酸素株式会社	営業部次長	コマツ ヒロアキ 小松 弘明		R6. 4. 1	R8. 3. 31
5	笠原環境経営	長野県温暖化防止活動推進員	カサハラ マサオ 笠原 雅男		R6. 4. 1	R8. 3. 31
6	諏訪信用金庫	しんきんローンセンター センター長	オグチ カズエ 小口 和恵		R6. 4. 1	R8. 3. 31
7	霧ヶ峰自然環境保全協議会	座長	ツチダ カツヨシ 土田 勝義		R6. 4. 1	R8. 3. 31
8	公益社団法人諏訪圏青年会議所	常任理事	マサザワ カナ 増澤 伽奈		R6. 4. 1	R8. 3. 31
9	一般社団法人諏訪観光協会 すわ姫会	すわ姫会	フルバヤシ エミコ 古林 絵美子		R6. 4. 1	R8. 3. 31
10	株式会社ジェイ・キッズ	専務取締役	コハリ チエミ 小針 知栄美		R6. 4. 1	R8. 3. 31
11	信州諏訪農業協同組合	理事	フジモリ ノリホ 藤森 紀保		R6. 4. 1	R8. 3. 31
12	諏訪湖温泉旅館協同組合	理事長	イトウ カツユキ 伊東 克幸		R6. 4. 1	R8. 3. 31
13	諏訪湖漁業協同組合	組合長	フジモリ ケイキチ 藤森 恵吉		R6. 4. 1	R8. 3. 31
14	諏訪市衛生自治連合会	会長	コバヤシ サトシ 小林 佐敏		R6. 4. 1	R8. 3. 31
15	諏訪市保育園保護者会連合会	会長	ナカノ ユウキ 中野 由生樹	新任	R7. 4. 1	R8. 3. 31
16	諏訪商工会議所	専務理事	オオダテ ミチヒコ 大館 道彦		R6. 4. 1	R8. 3. 31
17	諏訪地域振興局環境課	課長	ヤマモト カズミ 山本 一海	新任	R7. 4. 1	R8. 3. 31
18	諏訪市校長会	会長	ムラセ ヒロミ 村瀬 裕美	新任	R7. 4. 1	R8. 3. 31
19	諏訪市農業委員会	会長	コイズミ ユキヨシ 小泉 幸善		R6. 4. 1	R8. 3. 31

令和7年度 第1回諏訪市環境審議会

(書面開催)

次第

1 説明事項

(1) 環境基本計画及び環境審議会について

資料1

(新任委員のみ資料配布)

2 報告事項

(1) 令和7年度諏訪市環境推進会議の開催状況について

第三次諏訪市環境基本計画の進行管理

資料2-1

資料2-2

諏訪市環境推進会議では、第三次諏訪市環境基本計画の進行状況について担当課で評価した内容を推進委員の立場から確認し、意見や提言をいただいています。資料2-1では進行管理シートの見方について説明しています。資料2-2では各担当からの回答(赤字記入)が記載されています。表の右にある「環境推進会議委員意見→(意見に対する担当課回答)」欄を中心にご確認ください。

3 その他

(1) 書面開催確認書兼意見書

- ① 確認欄(□)にチェック「✓」をお願いします。
- ② 報告事項等に関してご意見等があればご記入ください。

令和7年度 第1回諏訪市環境審議会

(書面開催)

次第

1 説明事項 (新任委員確認用)

(1) 環境基本計画及び環境審議会について

資料1

第三次諏訪市環境基本計画は、国や県の「環境基本計画」、市の「総合計画」といった上位計画や関連計画との整合をはかりつつ、市民・事業者・行政による環境活動や地球温暖化対策の最上位計画として策定しています。第三次諏訪市環境基本計画の計画期間は、令和4年度～令和13年度までの10年間となります。

審議会の任務は、諏訪市環境基本条例第21条の2において「市長の諮問に応じて環境の保全に関する基本的事項並びに諏訪市自然環境保全条例に規定する事項及び自然環境の保全に関する重要事項等について調査審議するほか、当該事項について市長に意見を述べるができる。」としています。今回は環境推進会議(資料1参照ください)の報告に対しての確認が中心となります。

2 報告事項

(1) 令和7年度諏訪市環境推進会議の開催状況について

第三次諏訪市環境基本計画の進行管理

資料2-1

資料2-2

諏訪市環境推進会議では、第三次諏訪市環境基本計画の進行状況について担当課で評価した内容を推進委員の立場から確認し、意見や提言をいただいています。資料2-1では進行管理シートの見方について説明しています。資料2-2では各担当からの回答(赤字記入)が記載されています。表の右にある「環境推進会議委員意見→(意見に対する担当課回答)」欄を中心にご確認ください。

3 その他

(1) 書面開催確認書兼意見書

- ① 確認欄(□)にチェック「✓」をお願いします。
- ② 報告事項等に関してご意見等があればご記入ください。

第三次諏訪市環境基本計画について

1. 諏訪市環境基本計画の概要

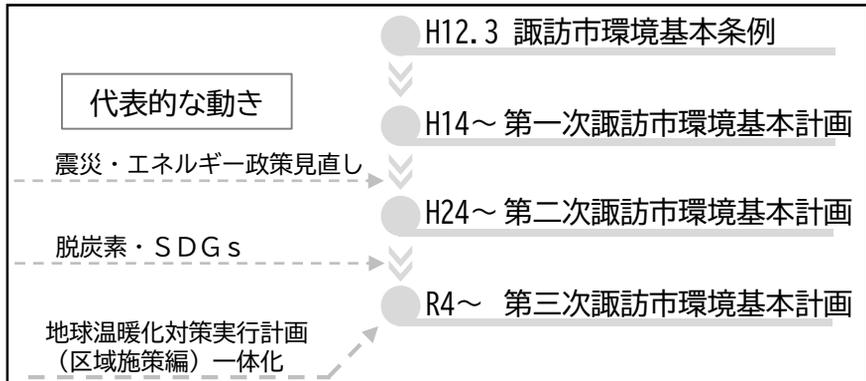
(1) 計画策定の主旨

諏訪市環境基本条例第2条に規定する基本理念を踏まえ、同条例第7条に基づき、複雑で多様な環境問題に対応し、環境の保全に関する施策を長期的、総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画として策定しています。基本理念は以下のとおりです。

- ①健全で豊かな環境の恵沢の享受と将来にわたっての維持
- ②環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会の構築
- ③地球環境保全

(2) これまでの環境基本計画

基本理念実現を踏まえ、平成14年3月に第一次諏訪市環境基本計画を策定しました。第一次諏訪市環境基本計画策定後、計画期間10年が経過すること、本市環境行政を取り巻く情勢等が変化していること、および国や長野県の環境計画等と整合を図らなければならないことなどから平成24年3月に改定を行い、第二次諏訪市環境基本計画を策定しています。



2. 第三次諏訪市環境基本計画について

(1) 計画の位置付けと対象範囲

第三次諏訪市環境基本計画は、国や県の「環境基本計画」、市の「総合計画」といった上位計画や関連計画との整合をはかりつつ、市民・事業者・行政による環境活動や地球温暖化対策の最上位計画として策定しています。対象範囲は諏訪市全域であり、「本市の環境への影響が考えられる活動全て」が対象となっています。対象とする環境区分は、「地球環境」「自然環境」「生活環境・快適環境」「循環型社会」「参加と協働」となります。

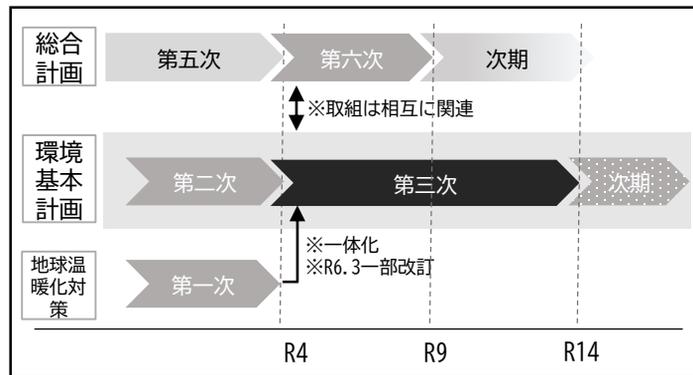
(2) 計画期間

第三次諏訪市環境基本計画の計画期間は、令和4(2022)年度～令和13(2031)年度までの10年間です。なお、中間の5年を目途に見直しを行い、新たに発生する環境課題へ対応するなど、柔軟に対応することとしています。

(3) 地球温暖化対策実行計画(区域施策編) 一体化

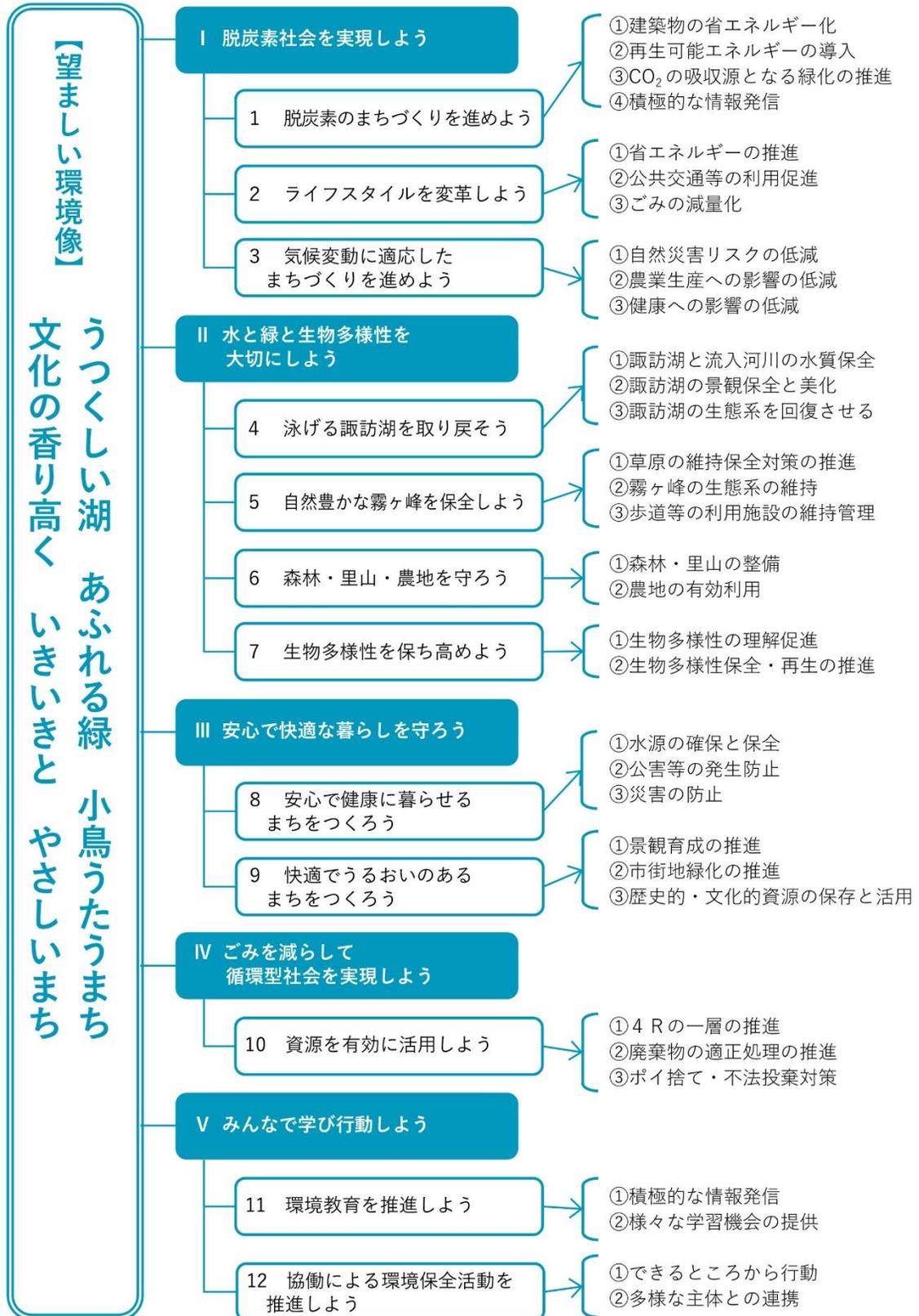
日本は令和2年に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、長野県も令和3年に「長野県ゼロカーボン戦略」を策定しました。どちらも2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す目標を掲げるものです。これは代表例ですが、国内外の地球温暖化対策を取り巻く状況は大きく変化しています。この重要な課題に対応していくため、第三次諏訪市環境基本計画策定に合わせ、第二次諏訪市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を一体化して策定しました。

地球温暖化対策実行計画(区域施策編)は「その区域の自然的社会的条件に応じて温室効果ガス排出の抑制等を行うための施策」として位置付けられており、諏訪市全域での温暖化対策のための施策です。なお、諏訪市役所という事業所としては事務事業編という計画を別に策定しています。



(4) 望ましい環境像と基本目標

第二次計画から引き続き、諏訪市民憲章でうたわれている理念を望ましい環境像として掲げています。この望ましい環境像実現のため、5つの基本目標を設定しています。また、各基本目標には「具体的取組の方針」と「取組の方向」を設定しています。



(5) ゼロカーボンシティ推進戦略

第三次諏訪市環境基本計画には、第二次諏訪市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）が包含されています。諏訪市では令和4年3月にゼロカーボンシティ宣言をし、計画においても2030年には実質60%の温室効果ガス排出量の削減を目標としていますが、何も取組をしなければ19.2%の削減にとどまることから、取組の加速が必要です。そのために、令和6年3月に計画を一部改訂し、「ゼロカーボンシティ推進戦略」という取組を加速させるための戦略を追加しました。詳細については計画書及び概要版に記載されていますが、計画の構造は以下のとおりです。

ゼロカーボンシティ 推進戦略

基本目標 脱炭素社会を実現しよう

推進思考

- I ポテンシャルの地域内有効活用
- II 民間活力活用と協働
- III 地方創生の実現



重点検討戦略
(優先検討手法)

創エネ

省エネ

蓄エネ

基礎構築

- ① PPA方式による太陽光発電
- ② 持続可能な営農型太陽光発電
- ③ 地域共生型風力・バイオマス発電
- ④ LCCを踏まえたZEB・ZEH等高性能建築普及
- ⑤ ゼロカーボンドライブによる地域振興
- ⑥ 熱資源の多段階活用
- ⑦ レジリエンス強化とポテンシャル有効利用実現
- ⑧ 関係者の脱炭素への入口整備

基本目標

脱炭素社会を実現しよう

第三次諏訪市環境基本計画において、望ましい環境像を実現するために基本目標が設定されており、地球温暖化対策に関連する目標として「脱炭素社会を実現しよう」が設定されています。ゼロカーボンシティ推進戦略においてもこの目標を軸に置き取組を進めることとします。

推進思考

ポテンシャルの地域内有効活用/民間活力活用と協働/地方創生の実現

戦略を考える上で基本とする考え方です。これらは第六次諏訪市総合計画に含まれる地方創生及びSDGsの考えを踏まえたものです。脱炭素社会は環境分野への効果だけでは実現できません。環境への取組により持続可能な社会を構築するための考え方です。

重点検討戦略
(優先検討手法)

創エネ戦略/省エネ戦略/蓄エネ戦略/基礎構築

「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」「基礎構築」という4分野に分けた「重点検討戦略」を想定します。この戦略を基に、地域ポテンシャルの分析等から、有効であると想定される手法を「優先検討手法」とし、優先的に検討、取組を進めていきます。

諏訪市環境審議会について

1. 諏訪市環境審議会の概要

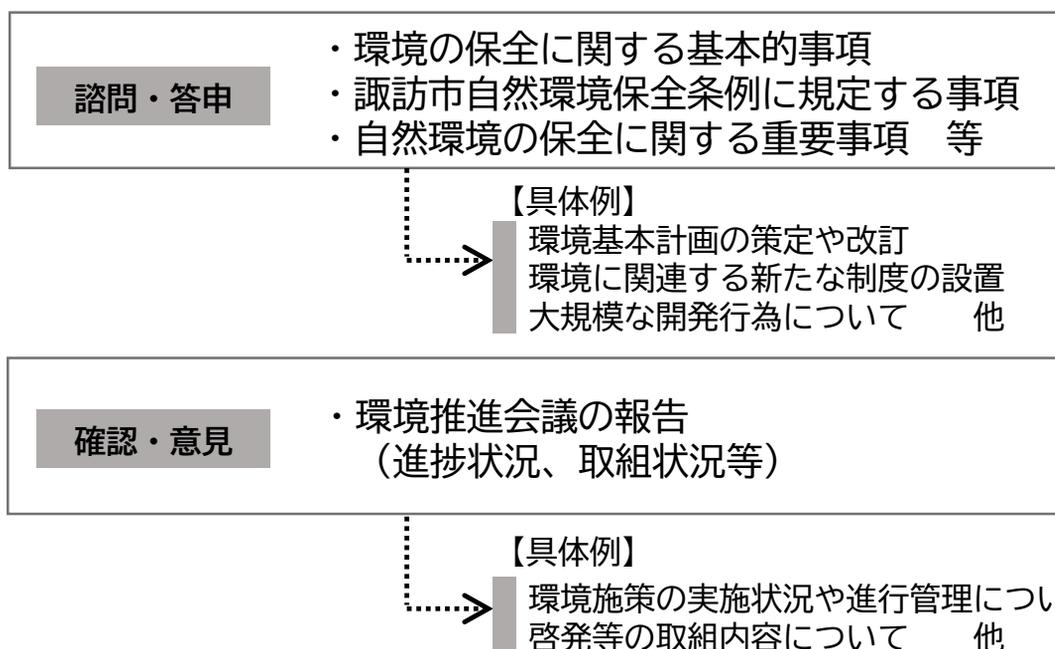
(1) 環境審議会の設置

環境基本法第四十四条において、「市町村は、その市町村の区域における環境の保全に関して、基本的事項を調査審議させる等のため、その市町村の条例で定めるところにより、環境の保全に関し学識経験のある者を含む者で構成される審議会その他の合議制の機関を置くことができる。」とされています。

これに対して、諏訪市では諏訪市環境基本条例第21条で、「環境基本法第44条の規定に基づき、諏訪市環境審議会を設置する。」と定め、諏訪市環境審議会を設置しています。

(2) 諏訪市環境審議会の任務

審議会の任務は、諏訪市環境基本条例第21条の2において「市長の諮問に応じて環境の保全に関する基本的事項並びに諏訪市自然環境保全条例に規定する事項及び自然環境の保全に関する重要事項等について調査審議するほか、当該事項について市長に意見を述べるができる。」としています。任務を整理したものは以下の通りです。



【参考：諏訪市環境推進会議】

諏訪市環境推進会議という組織もあります。こちらは、市民・事業者・行政が強力な連携と協働のもと、国・県・近隣自治体と連携し、それぞれの役割を果たしながら計画を推進するため、市民・事業者・行政の各代表により構成される組織となります。

環境推進会議の任務は以下の通りです。

- ・ 計画の進捗状況の把握、取組状況などのとりまとめ
- ・ 施策の修正、目標値の設定、行動指針の見直しなど
- ・ 各主体に対する提言
- ・ 啓発の方法

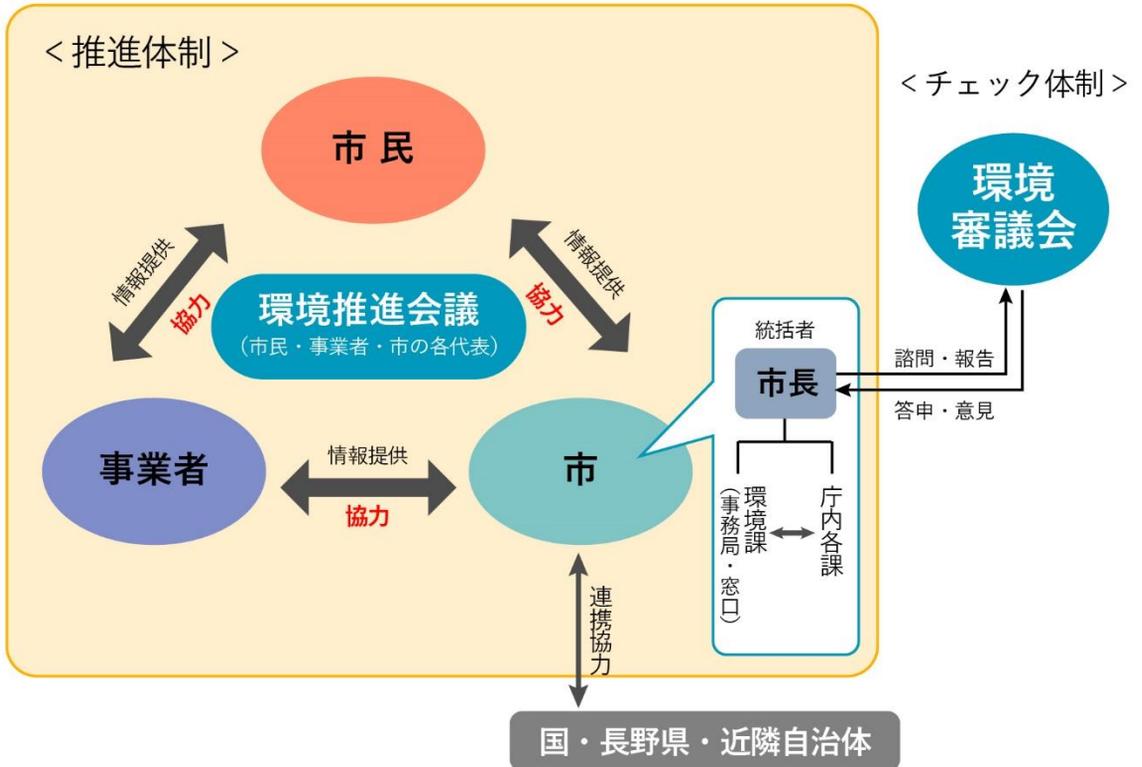
環境推進会議と環境基本計画

1. 諏訪市環境推進会議

(1) 計画の推進

計画の推進にあたり、市民・事業者・市は強力な連携と協働のもと、国・県・近隣自治体と連携し、それぞれの役割を果たしながら計画を推進します。市民・事業者・行政の各代表により構成される環境推進会議は、これを実現するための組織です。

なお、計画が適切に実行されているかは環境審議会が確認をします。

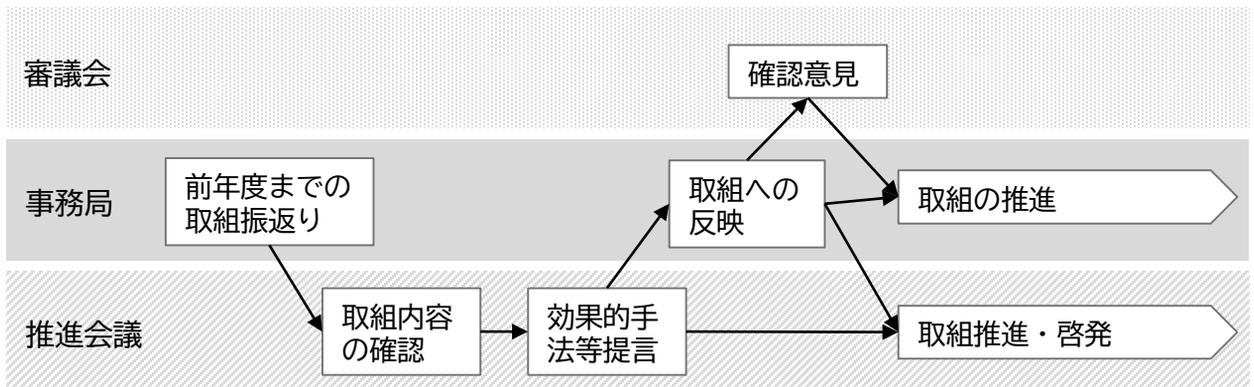


(2) 計画の推進のための検討

計画、取組推進の成果を上げるために以下の検討をしていきます。

- 計画の進捗状況の把握、取組状況などのとりまとめ
- 施策の修正、目標値の設定、行動指針の見直しなど
- 各主体に対する提言
- 啓発の方法

(3) 会議での活動の流れ (例)



諏訪市環境推進会議では、第三次諏訪市環境基本計画の進行状況について担当課で評価した内容を推進委員の立場から確認し、意見や提言をいただいています。その方法について本資料でご説明いたします。シートの方等は次ページ以降をご確認ください。

↓ 進行管理の方法 ↓

- 1 計画とシート構造の確認**

まずは、第三次諏訪市環境基本計画の構造、進行管理シートの構造をご確認ください。（P2～3）
- 2 全体の状況把握**

重要業績指標の達成度と評価点の状況について把握をします。（P4）
- 3 基本目標の状況把握**

基本目標分野の状況、目標達成率及び関連する方針の評価を把握します。（P5）
- 4 方針毎の取り組み状況把握**

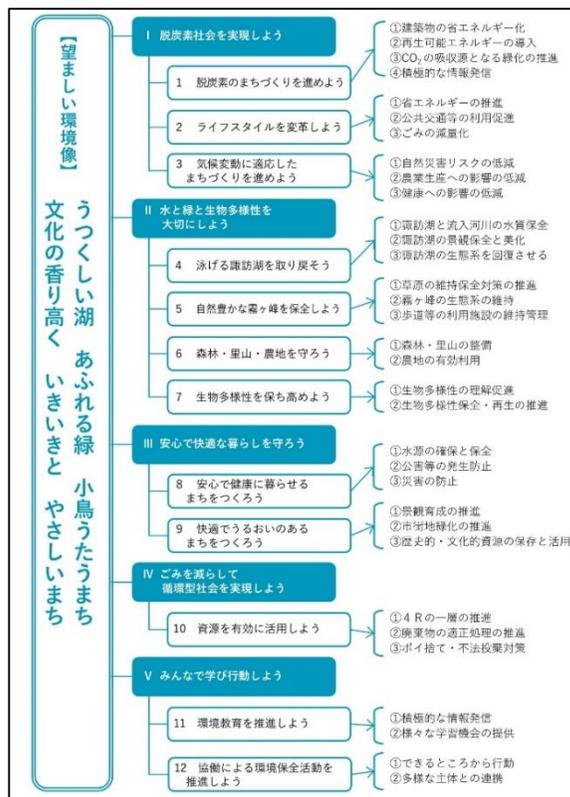
各方針の状況を具体的取組、担当課の評価結果から確認します。（P6）
- 5 個別取組に対する意見及び提言**

3で確認した取組について、意見や提言を提出用紙に記載します。（P6）

1 計画とシート構造の確認

第三次諏訪市環境基本計画は、望ましい環境像実現のために5つの基本目標があり、その達成のための方針を設定しています。これが第三次諏訪市環境基本計画の構造です。進行管理においても、この3層構造での管理を行います。特に方針については、個別の取組の状況を把握し改善につながることから、方針を中心に進行管理の確認を行います。

【第三次諏訪市環境基本計画】



望ましい
環境像

全体総括

- ・ 全体を通じてのとりまとめ
- ・ 環境に係る状況把握

基本目標

分野毎の進行状況把握

- ・ 指標 + 評価点とりまとめ
- ・ 分野の状況把握

方針

個別取組の状況把握

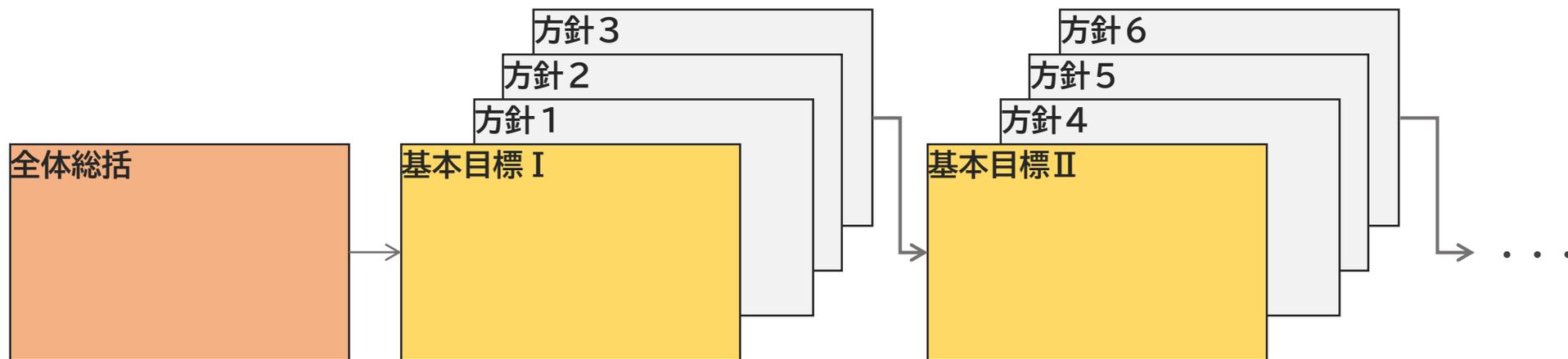
- ・ 指標 + 評価点（個別取組）
- ・ 個別の取組状況と今後の方向性

取組の方向

1 計画とシート構造の確認

第三次諏訪市環境基本計画進行管理シートは、計画体系と同じく全体統括シート、基本目標シート、関連する方針シートという3段階構成となっています。それぞれのシートの役割は以下のとおりです。

- ▶ **全体総括シート** 重要業績指標、評価点について取りまとめたものです。数字で全体の状況を把握するためのシートです。
- ▶ **基本目標シート** 総合計画の重要業績指標（KPI）、方針毎の評価点から基本目標分野の状況を把握するためのシートです
- ▶ **方針シート** 方針に関する個別の取組状況を把握し進行管理を行うためのシートです。



※シートはこの順で作成しています。

全体の状況把握

基本目標シート、方針シートを確認いただく前に、まずは計画全体に関する重要業績指標の達成度及び評価点の状況を確認します。

【シートの確認方法】

第三次諏訪市環境基本計画進行管理シート

基本目標Ⅰ 脱炭素社会を実現しよう	P4	基本目標Ⅲ 安心で快適な暮らしを守ろう	P21
方針1 脱炭素のまちづくりを進めよう	P5	方針8 安心で健康に暮らせるまちをつくらう	P22
方針2 ライフスタイルを変革しよう	P9	方針9 快適でうれしいあるまちをつくらう	P24
方針3 気候変動に対応したまちづくりを進めよう	P12		
基本目標Ⅱ 水と緑と生物多様性を大切にしよう	P13	基本目標Ⅳ ごみを減らして循環型社会を実現しよう	P26
方針4 泳げる湖沼を取り戻そう	P14	方針10 資源を有効に活用しよう	P27
方針5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	P16		
方針6 森林・里山・農地を守ろう	P18	基本目標Ⅴ みんなで学び行動しよう	P31
方針7 生物多様性を保ち高めよう	P20	方針11 環境教育を推進しよう	P32
		方針12 協働による環境保全活動を推進しよう	P34

1

KPIの達成率をまとめて掲載しています。前年度の達成率と比較可能です。

● KPI 達成率

項目		R6年度 達成率	R5年度 達成率	達成率評価
基本目標Ⅰ	方針1 再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	107.9%	105.7%	非常に順調
基本目標Ⅱ	方針5 霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	97.5%	97.2%	順調
	森林整備面積	46.1%	53.6%	効果なし
	松枯損木の伐倒処理件数	93.3%	40.0%	順調
	木材搬出面積	52.2%	68.0%	努力が必要
	農業の担い手への農地集積率	85.5%	90.2%	順調
方針7 霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	97.5%	97.2%	順調	
基本目標Ⅲ	方針8 防災メールの登録者数	89.4%	88.8%	順調
	諏訪市防災気象情報システムアクセス数	217.8%	131.2%	非常に順調
	講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	102.8%	85.3%	非常に順調
方針9 文化遺産関連の保存活動に参加した人数	373.7%	192.7%	非常に順調	
基本目標Ⅳ	方針10 ごみリサイクル率	83.1%	79.9%	順調
	燃やすごみ排出量	100.0%	98.4%	非常に順調

● KPI の評価区分集計

	基準	非常に順調	順調	努力が必要	効果なし
数量		5	6	1	1
割合		38.5%	46.2%	7.7%	7.7%

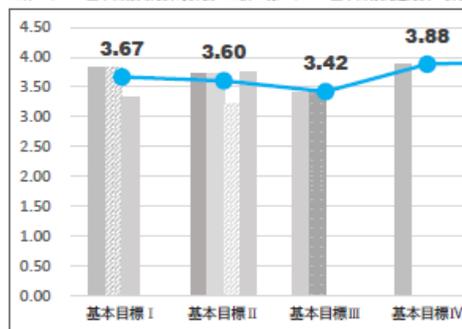
※非常に順調…達成率100%以上、順調…達成率80%以上、努力が必要…達成率50%以上、効果なし…達成率49%以下

2

KPIの総合計画における評価分布を掲載しています。

● 方針毎の評価と基本目標に関する方針の評価平均

※棒グラフ…基本目標内方針毎評価 ※折れ線グラフ…基本目標関連方針の評価



3

基本目標毎の評価点をグラフにして掲載しています。

基本目標の状況把握

基本目標シートに記載の内容から、基本目標の状況を把握します。次のステップでは方針毎の取組状況を把握しますが、その取組がどの重要業績指標につながっているかを合わせて確認します。

【シートの確認方法】

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
	脱炭素社会の実現のため、二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指して、建築物の省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の大幅な削減を推進します。また、二酸化炭素の吸収源となる緑を積極的に増やす取組を推進します。

●基本目標 I に関連する KPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t
	実績値	4,424t	4,689t	4,999t		
	達成度	104.5%	105.7%	107.9%		

1

計画の進行状況の指標です。目標に対しての達成度を年度毎に表しています。

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.44	3.51	3.67		
1 脱炭素のまちづくりを進めよう	3.08	3.36	3.83		
2 ライフスタイルを変革しよう	3.57	3.50	3.83		
3 気候変動に適應したまちづくりを進めよう	3.67	3.67	3.33		

2

基本目標に関連する方針毎の評価とその平均値を年度毎に表しています。

考察	<p>■PPA方式での諏訪市役所と諏訪中学校への再生エネ導入を実現。いずれも諏訪地域自治体では初の公共施設への導入。また、R5年度から7施設増の計31の公共施設で使用する電力を、実質100%再生可能エネルギーとすることができ、R5年度に引き続き順調な進行と言える。</p> <p>■R5年度に引き続きSPOBYというスマホアプリを活用し、市民等の脱炭素移動とマイボトル活動を環境配慮活動を行う店舗等が特典付与で応援するイベントを実施。R6年度は参加事業者も増え、参加者は倍近くになった。期間をR5年度より長く設定していることもあるが、取り組みのハードルが低く、プラスαの特典による参加意欲向上の効果もあったことも参加者増加の要因の一つと考えられ、有効な方法であると思われる。</p> <p>■国土強靱化実現のためのインフラ整備のための河川改修等は、昨年度までの規模での実施が難しかった。限られた予算内で実施する必要がある中で、物価高などにより例年通りの実施が難しくなっているものもある。</p>
----	---

3

重要業績指標、評価点、個別取組の状況から基本目標の現時点の状況を記載しています。

4 方針毎の取組状況把握 5 個別取組に対する意見及び提言

各方針に関連する取組の内容、結果及び今後の方向性について確認いただきます。環境推進会議でいただいた意見については、会議後担当課から回答を作成しています。

【シートの確認方法】

6 方針に関連する取組の評価点の平均値です。
※基本目標シートにもこの結果が反映されています。

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	1 脱炭素のまちづくりを進めよう
取組の方向	①建物の省エネルギー化 ②再生可能エネルギーの導入 ③CO2の取組源となる緑化の推進 ④積極的な情報発信

目標番号

方針番号

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.08	3.36	3.83		

7 委員からいただいた意見と担当課による回答（→以降）を記載しています。

【評価点】
5…十分取り組まれている [100%以上の進捗状況]
4…かなり取り組まれている [80～99%の進捗状況]
3…ある程度取り組まれている [50～79%の進捗状況]
2…あまり取り組まれていない [30～49%の進捗状況]
1…取り組まれていない [30%未満の進捗状況]

取組番号

主な取組	実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1 地球温暖化対策補助	地中熱の活用、家庭の再生エネルギー設備で発電した電気を蓄電する構造の定置型蓄電池の設置、電動車と自宅電気共有できるV2Hシステムの設置及びV2Hと同時に設置するソーラーカーポート及び住宅空調口部の断熱性能向上に対する補助を実施。	太陽光発電による電力の買取価格下落、電気料金の高騰という背景及び多摩事業者の蓄電池ビジネス参入もあり、太陽光発電の自己消費への変更工事に伴う蓄電池及びV2Hシステム設置を後押しする結果となった。 【補助実績】 定置型蓄電池20件2,000千円、V2Hシステム2件200千円、蓄電容量計298.74kWh	太陽光発電電力の蓄エネによる再生エネルギーの有効利用を継続支援するとともに、R7年度からは宅配ボックス設置を補助メニューに加え、生活に身近な宅配荷物の再配送に起因する二酸化炭素排出抑制を推進していく。	4	3	ゼロイカ推進室	

1 事業名などの取組の名称です

2 実施内容です。下線は新たな要素です。

3 2の実施結果を端的に記載しています。

4 3の結果や社会情勢等から担当課の分析した課題や方向性を記載しています。

5 取組毎の評価点です。評価は次ページ掲載の基準により行っています。左がR6年度の評価、右はR5年度（前年度）の評価です。

第三次諏訪市環境基本計画進行管理シート

資料2-2

基本目標Ⅰ	脱炭素社会を実現しよう	P4
	方針1 脱炭素のまちづくりを進めよう	P6
	方針2 ライフスタイルを変革しよう	P14
	方針3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	P18

基本目標Ⅱ	水と緑と生物多様性を大切にしよう	P19
	方針4 泳げる諏訪湖を取り戻そう	P21
	方針5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	P26
	方針6 森林・里山・農地を守ろう	P29
	方針7 生物多様性を保ち高めよう	P32

基本目標Ⅲ	安心で快適な暮らしを守ろう	P34
	方針8 安心で健康に暮らせるまちをつくらう	P36
	方針9 快適でうるおいのあるまちをつくらう	P38

基本目標Ⅳ	ごみを減らして循環型社会を実現しよう	P40
	方針10 資源を有効に活用しよう	P41

基本目標Ⅴ	みんなで学び行動しよう	P46
	方針11 環境教育を推進しよう	P47
	方針12 協働による環境保全活動を推進しよう	P50

●KPI達成率

項目			R6年度 達成率	R5年度 達成率	達成率評価
基本目標Ⅰ	方針1	再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	107.9%	105.7%	非常に順調
基本目標Ⅱ	方針5	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	97.3%	97.2%	順調
	方針6	森林整備面積	46.1%	53.6%	効果なし
		松枯損木の伐倒処理件数	93.3%	40.0%	順調
		木材搬出面積	52.2%	68.0%	努力が必要
		農業の担い手への農地集積率	85.5%	90.2%	順調
方針7	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	97.3%	97.2%	順調	
基本目標Ⅲ	方針8	防災メールの登録者数	89.4%	88.8%	順調
		諏訪市防災気象情報システムアクセス数	217.8%	131.2%	非常に順調
	方針9	講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	102.8%	85.3%	非常に順調
		文化遺産関連の保存活動に参加した人数	373.7%	192.7%	非常に順調
基本目標Ⅳ	方針10	ごみリサイクル率	83.1%	79.9%	順調
		燃やすごみ排出量	100.0%	98.4%	非常に順調

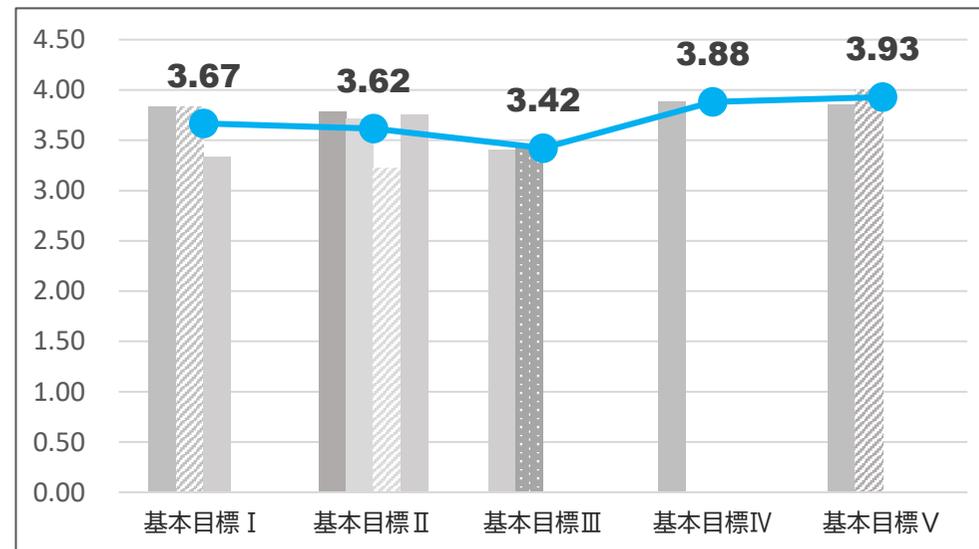
●KPIの評価区分集計

基準	非常に順調	順調	努力が必要	効果なし
数量	5	6	1	1
割合	38.5%	46.2%	7.7%	7.7%

※非常に順調…達成率100%以上、順調…達成率80%以上、
努力が必要…達成率50%以上、効果なし…達成率49%以下

●方針毎の評価と基本目標に関連する方針の評価平均

※棒グラフ…基本目標内方針毎評価 ※折れ線グラフ…基本目標関連方針の評価平均



第三次諏訪市環境基本計画の達成度をはかるKPI（重要業績指標）

計画項目			KPI（重要業績指標推移）								
基本目標	方針	取組の方向	項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8	達成度前年比	
I 脱炭素社会を実現しよう	1. 脱炭素のまちづくりを進めよう	再生可能エネルギーの導入	再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t		
				実績値	4,424t	4,689t	4,999t				
				達成度	104.5%	105.7%	107.9%				
II 水と緑と生物多様性を大切にしよう	5. 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	草原の維持保全対策の推進	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	目標値	140ha	145ha	150ha	155ha	160ha		
				実績値	137ha	141ha	146ha				
				達成度	97.9%	97.2%	97.3%				
	6. 森林・里山・農地を守ろう	森林・里山の整備	森林整備面積		目標値	105.0ha	107.0ha	109.0ha	111.0ha	113.0ha	
					実績値	83.97ha	57.31ha	50.28ha			
					達成度	80.0%	53.6%	46.1%			
			松枯損木の伐倒処理件数		目標値	15本	15本	15本	15本	15本	
					実績値	26本	6本	14本			
					達成度	173.3%	40.0%	93.3%			
	木材搬出面積		目標値	33.5ha	34.5ha	35.5ha	36.5ha	37.5ha			
			実績値	27.31ha	23.46ha	18.54ha					
			達成度	81.5%	68.0%	52.2%					
	農地の有効活用	農業の担い手への農地集積率		目標値	39.3%	41.7%	44.7%	47.6%	50.0%		
				実績値	37.3%	37.6%	38.2%				
				達成度	94.9%	90.2%	85.5%				
7. 生物多様性を保ち高めよう	生物多様性保全・再生の推進	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	目標値	140ha	145ha	150ha	155ha	160ha			
			実績値	137ha	141ha	146ha					
			達成度	97.9%	97.2%	97.3%					
III 安心して快適な暮らしを守ろう	8. 安心して健康に暮らせるまちをつくらう	災害の防止	防災メールの登録者数	目標値	9,100人	9,200人	9,300人	9,400人	9,500人		
				実績値	7,927人	8,172人	8,315人				
				達成度	87.1%	88.8%	89.4%				
	9 快適でうるおいのあるまちをつくらう	歴史的・文化的資源の保存と活用	講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	目標値	32%	34%	36%	38%	40%		
				実績値	10%	29%	37%				
				達成度	31.3%	85.3%	102.8%				
	文化遺産関連の保存活動に参加した人数		目標値	93人	96人	99人	102人	105人			
			実績値	146人	185人	370人					
			達成度	157.0%	192.7%	373.7%					
IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう	10. 資源を有効に活用しよう	4Rの一層の推進	ごみリサイクル率	目標値	23.1%	22.9%	22.5%	22.2%	22.0%		
				実績値	18.1%	18.3%	18.7%				
				達成度	78.4%	79.9%	83.1%				
	廃棄物の適正処理の推進	燃やすごみ排出量	目標値	11,442t以下	11,479t以下	11,471t以下	11,531t以下	11,444t以下			
			実績値	12,147t	11,662t	11,469t					
			達成度	93.8%	98.4%	100.0%					

I 脱炭素社会を実現しよう	
1 脱炭素のまちづくりを進めよう	
1	地球温暖化対策補助
2	公共施設への再生可能エネルギー導入及び検討
3	再生可能エネルギー設備の適正化
4	グリーンカーテンの推進
5	小中学校での環境教育
6	意識醸成イベント及び講演会実施
7	展示による普及活動
8	各種媒体による普及啓発活動
9	市庁舎電気の実質100%再生可能エネルギー化
10	職場環境整備促進事業補助金
11	温泉熱発電実証実験
2 ライフスタイルを変革しよう	
1	公用車の排出炭素削減
2	エコドライブやスマートムーブ通勤等の推進
3	公共交通の維持と利用促進
4	ゼロカーボンアクションの浸透
5	意識醸成ノベルティの開発と配布
6	各種媒体による普及啓発活動（再掲）
3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	
1	国土強靱化実現のためのインフラ整備
2	河川管理事業
3	防災気象情報システム運用事業
II 水と緑と生物多様性を大切にしよう	
4 泳げる諏訪湖を取り戻そう	
1	河川水質検査
2	ヒシ取りの実施
3	諏訪湖創生ビジョン推進会議による活動
4	諏訪湖浮遊ごみ回収
5	散乱ごみのない美しいまちづくり事業
6	小型合併処理浄化槽設置補助
7	公共下水道接続促進
8	農薬等適正使用推進
9	団体等による美化活動支援

5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	
1	霧ヶ峰草原再生作業の実施
2	霧ヶ峰高原における特定外来生物駆除の実施
3	霧ヶ峰関連団体との連携
4	諏訪市自然環境保全条例の運用
5	霧ヶ峰高原の学生による保護及び啓発活動
6	霧ヶ峰の湿原保護のための木道整備
7	ニホンジカによる食害対策
6 森林・里山・農地を守ろう	
1	森林づくり事業（市有林）
2	森林づくり事業（団体有林等）
3	森林経営管理等推進事業
4	諏訪平土地改良区農地基盤整備事業
5	林道整備事業
6	農道・農業用水路整備事業
7	諏訪市自然環境保全条例の運用（再掲）
8	森林学習の実施と充実
9	荒廃農地化の抑制
7 生物多様性を保ち高めよう	
1	特定外来生物駆除の実施
2	生物多様性に関する情報の発信
3	有害鳥獣対策
4	外来魚被害緊急対策事業補助
III 安心で快適な暮らしを守ろう	
8 安心で健康に暮らせるまちをつくろう	
1	特定建設作業、特定工場への対応
2	自動車騒音測定と面的評価の実施
3	公害の苦情対応
4	避難所等公共施設への再エネ導入
5	国土強靱化実現のためのインフラ整備（再掲）

9 快適でうるおいのあるまちをつくろう	
1	景観育成関連計画の推進
2	まちなみ景観推進事業補助
3	屋外広告物に対する指導
4	景観に対する意識啓発
5	都市公園の維持管理
6	ケヤキ並木花いっぱい事業
7	緑化推進のための苗木配布
8	歴史的、文化的資源の保存及び継承
9	空き家、空き地の適正管理推進
IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう	
10 資源を有効に活用しよう	
1	給水スポット設置
2	ペーパーリサイクル事業
3	ごみステーションにおける分別指導
4	不法投棄抑制のための啓発資材設置及び配布
5	諏訪市一斉清掃の実施
6	散乱ごみのない美しいまちづくり事業（再掲）
7	保育園、小中学校の生ごみ別回収
8	生ごみ処理機購入補助
9	草類堆肥化及び剪定木のチップ化推進
10	生ごみ処理機の利用推進（さざ波の家）
11	古紙リサイクル事業
12	多量排出事業者届出制度の運用
13	24時間資源物回収拠点場所開設
14	サンデーリサイクルの実施
15	広域でのごみ削減
16	フードドライブ等による食品ロス削減
17	放置自転車等の対策
V みんなで学び行動しよう	
11 環境教育を推進しよう	
1	広報すわでの情報発信
2	環境紙芝居
3	出前講座の実施
4	小中学校での環境教育（再掲）
5	森林学習の実施と充実（再掲）
6	意識醸成イベント及び講演会実施（再掲）
12 協働による環境保全活動を推進しよう	
1	連携取組体制の構築
2	ESG債券への投資

基本目標	Ⅰ 脱炭素社会を実現しよう
	脱炭素社会の実現のため、二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指して、建築物の省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の大幅な削減を推進します。また、二酸化炭素の吸収源となる緑を積極的に増やす取組を推進します。

●基本目標Ⅰに関連するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t
	実績値	4,424t	4,689t	4,999t		
	達成度	104.5%	105.7%	107.9%		

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.44	3.51	3.67		
1 脱炭素のまちづくりを進めよう	3.08	3.36	3.83		
2 ライフスタイルを変革しよう	3.57	3.50	3.83		
3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	3.67	3.67	3.33		

考察	<p>■PPA方式での諏訪市役所と諏訪中学校への再エネ導入を実現。いずれも諏訪地域自治体では初の公共施設への導入。また、R5年度から7施設増の計31の公共施設で使用する電力を、実質100%再生可能エネルギーとすることができ、R5年度に引き続き順調な進行と言える。</p> <p>■R5年度に引き続きSPOBYというスマホアプリを活用し、市民等の脱炭素移動とマイボトル活動を環境配慮活動を行う店舗等が特典付与で応援するイベントを実施。R6年度は参加事業者も増え、参加者は倍近くになった。期間をR5年度より長く設定していることもあるが、取り組みのハードルが低く、プラスαの特典による参加意欲向上の効果があったことも参加者増加の要因の一つと考えられ、有効な方法であると思われる。</p> <p>■国土強靱化実現のためのインフラ整備のための河川改修等は、昨年度までの規模での実施が難しかった。限られた予算内で実施する必要がある中で、物価高などにより例年通りの実施が難しくなっているものもある。</p>
----	--

意見の対象	意見	回答
基本目標1	目標に対する結果があり、反省をして次の目標を目指すのが本来の姿だと思う。それには、数値目標がなくてはならないと思う。	脱炭素社会の実現においては個々の取組による数値的な目標の達成が大切であることはもちろんですが、各取組が相乗的に行われ、全体として目標を達成していくことが重要であると考えており、KPIにおいて取組全体での年間CO2削減量を数値目標として個々の取組を実施し、達成度管理を行っております。委員ご指摘のように取組の特性によっては個々に数値目標を設定した方がより効果的な結果を目指すことができるものもあるかと思っておりますので、今後の個々の取組に数値目標を設定することも検討して参りたいと存じます。
基本目標1	女性会では毎年打ち水を並木通りで実施しており、今年度は8月5日に予定している。女性会だけではなく、一緒に実施する団体や企業があれば、より効果があるのではないか。	貴団体の実施されている打ち水は、環境省からも推奨されているエコなアクションであり、また、行政主導でないという点においても大変意義がある活動であると考えます。環境推進会議の委員の皆さまを通じて他の団体や企業の皆さまに広がることを期待しますとともに、市としましてもゼロカーボンシティ宣言にご賛同いただいた企業や団体、個人の皆さまに配信しておりますメールマガジンにてご紹介させていただくなどの手法でご協力できればと考えております。

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	1 脱炭素のまちづくりを進めよう
取組の方向	①建物の省エネルギー化 ②再生可能エネルギーの導入 ③CO2の吸収源となる緑化の推進 ④積極的な情報発信

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.08	3.36	3.83		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	地球温暖化対策補助	地中熱の活用、家庭の再エネ設備で発電した電気を蓄電する構造の定置型蓄電池の設置、 <u>電動車と自宅で電気を共有できるV2Hシステムの設置及びV2Hと同時に設置するソーラーカーポート及び住宅開口部の断熱性能向上に対する補助を実施。</u>	太陽光発電による電力の買取価格下落、電気料金の高騰という背景及び多事業者の蓄電池ビジネス参入もあり、太陽光発電の自己消費への変更工事に伴う蓄電池及びV2Hシステム設置を後押しする結果となった。 【補助実績】 定置型蓄電池20件2,000千円、V2Hシステム2件200千円、蓄電容量計298.74kW	太陽光発電電力の蓄エネによる再エネの有効利用を継続支援するとともに、R7年度からは宅配ボックス設置を補助メニューに加え、生活に身近な宅配荷物の再配送に起因する二酸化炭素排出抑制を推進していく。	4	3	ゼロカーボン推進室	V2Hシステム等の設備は、導入による費用対効果ばかり議論される傾向があり、ゼロカーボン意識とはずれたところに論点がいきがちだと思う。それよりも、ゼロカーボンと防災意識の醸成を目的に、市民から見て目立つ場所にエネルギーを自給自足するオフグリッド設備を設置するなどの方が良いのではないかと。 →V2Hシステム等の設備については様々な論点があるかとは存じますが、市補助金については、家庭用の太陽光発電設備で発電した電力の充電や蓄電を要件とし、再生可能エネルギー導入と災害時の電源確保を両立させ、それを通じたゼロカーボンと防災への意識醸成を図ることができればと考え、補助を行っております。とはいえ、多様な方向性から意識醸成に取り組んでいくことは重要と考えておりますので、ご提案いただいたオフグリッド設備の設置等も含めた様々な可能性を探り、より一層の意識醸成に取り組んで参りたいと存じます。

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	地球温暖化対策補助 (続き)						ゼロカーボン推進室	<p>脱炭素社会を実現するためのものであるが実際言葉自体も浸透していないのでその為の意味も分からないことが多く、市民一人一人が自分がその為に何をすれば良いのかも分からない。簡単な取り組みから出来る為の説明の場所や情報の拡散方法を考えるべきだと思います。</p> <p>→補助メニューやその要件に含まれる用語が浸透していないことで補助の活用を控えてしまう市民の方もいらっしゃると思いますので、より平易でわかりやすい情報発信に努め、補助金に関する周知の場を増やすよう取り組んで参りたいと存じます。</p> <p>意識醸成部分についても、これまでに市公式YouTubeチャンネルにおいて「ゼロカーボン動画」を公開する等わかりやすい発信に努めて参りましたが、より一層の醸成を図るためのアイデアを委員の皆さまと一緒に考えて参りたいと存じます。</p> <p>太陽光発電や定置型蓄電池の設置補助の申請について、補助の基準などもう少し分かりやすくPRする必要があるのではないかと。</p> <p>→補助メニューごとの要件をまとめたホームページの作成などを行っておりますが、より多くの方に補助金を活用してもらうためにも、“わかりやすさ”はとても重要だと考えております。基準等のどのような部分がわかりにくいのか、またどのように改善していった方がよいのかを具体的にご教授いただけますとともに、改善やPRの手法について委員の皆さまとともに考えさせていただければと存じます。</p>

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
2	公共施設への再生可能エネルギー導入及び検討	市役所及び諏訪中学校でのPPA方式での太陽光発電設備を稼働させる。 <u>また、レジリエンス視点も含め、避難所となる公共施設への再エネ導入の可能性を調査。</u> <u>結果を基に避難所となる公共施設へオンサイトPPA方式による太陽光発電設備を導入する。</u>	諏訪地域自治体では初のPPA方式での公共施設への再エネ導入を実現（諏訪市役所1月6日稼働）。同じく諏訪地域学校施設でも初となる導入を実現した（諏訪中学校1月17日稼働）。これにつづく導入に向け、公共15施設についてPPA方式での導入可能性調査を実施。結果を基に4施設について国補助金活用を前提とした事業者の公募を開始。その他施設についても、構造や実際の電力消費量からオンサイトPPA方式での導入基礎データを把握することができた。	R6年度から公募を開始している4施設については、R8年度稼働を目指し導入を進めるとともに、地球温暖化対策実行計画（事務事業編）にPPA方式での再エネ導入の方向性を追加する。	5	4	シ ゼ ロ イ カ 推 進 ポ ン	実際に今現在取組んでいることの進行状況を分かり易く、具体的にデータに基づいて説明して欲しい。特に一人一人が何を意識して取組めばどのような結果が得られるのかを知りたい。 →数字的な表現も含め、よりわかりやすく、多くの方が目を留めていただけるような進行状況の提示について努めて参りたいと存じます。 民間が主導する脱炭素事業促進諏訪地域コンソーシアムに対する行政の積極的関与が必要と考える。PPAによる再生可能エネルギーの普及については民間と行政との連動した取組が必要。また環境省からの補助金支援を取り付ける上でも行政の積極的な支援が必要と考える。諏訪市のスタンス、姿勢について伺いたい。 →脱炭素事業促進諏訪地域コンソーシアムは4月に第1回会合が行われ、今後みずほリサーチ&テクノロジーズが実施するアンケートにより把握、発掘された地域事業者のニーズや事業化可能性、事務局より提案される事業構想案をもとに組織としての方向性が具体化されていくという認識が共有されたことは委員もご存知のところかと存じます。行政の積極的関与、積極的支援が必要とのご意見ですが、コンソーシアムの向かうべき具体的な方向性も未定であり、どのような関与や支援が必要なのかははっきりしていない状況の中で具体的なスタンスや姿勢を申し上げる段階にはないと考えますが、民間主導であることを大前提としているコンソーシアムの中で行政でなければ果たすことができない役割については前向きに取り組んで参りたいと存じます。
3	再生可能エネルギー設備の適正化	諏訪市環境と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例を運用し、再エネ導入推進と環境保全、安心できるくらしの確保の両立を図る。	R4年7月の条例施行からR7年3月までで対象となる案件はないが、事業者等から条例についての照会は複数あった。また、県の再エネ条例も施行されており、許可制である案件が諏訪市では対象となっている。	野立て太陽光を対象とした長野県の条例がR6年4月1日より施行され、当市では特定区域（急傾斜地への設置等危険の生じる可能性のある区域）での事業について県条例の対象となる。引き続き、市及び県条例を運用し、地域と調和した再エネの導入を推進する。	3	3	環 境 課	

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
4	グリーンカーテンの推進	環境月間に合わせて植物の種を配布するとともに関係者の実施したグリーンカーテンの状況を募集し結果を周知することで、グリーンカーテン活動推進及び関係者のゼロカーボン意識向上を図る。	6月のロビー展にてグリーンカーテン種子の配布を行った。また、6～9月に「みんなの家の「みどりのカーテン」と題して実施状況を募集、応募された実施例を発信することで、広く市民に啓発を行い、意識醸成に努めた。 【配布数】 2種類/400袋	種子配布は継続するとともに、誰もが取り組める脱炭素活動の代表例であることから、「みんなの家の「みどりのカーテン」と題した取組を継続し、多くの方のゼロカーボンに対する意識醸成を推進していく。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進 ボ 室 ン	市民への種の配布がされ、良いことではあるが、公共施設での取り組みを行い、市民と一体となった取り組みとした形を見せたいかがか。 →市でも市役所敷地内でみどりのカーテンを育てて、市民、団体の皆さまの取組事例とともに紹介することで一体となった取組である旨をPRして参りました。より一層のPRに繋がる手法などアイデアがございましたら、ご教授願います。 温室効果ガスを吸収する役目の植物を増やす事はとても重要だと思う。誰もが取り組める脱炭素活動として意識向上のために、グリーンカーテン種子の配布を告知し、今より広範囲に広めることも大事だと思う。 →種子の配布についての告知が不足していることへの改善方法として、令和7年度はLINEのメッセージを利用した情報発信を配布期間中盤で実施しました。より多くの方に周知できるように上記広報を配布期間前に行うなどしていきたい、また、広報の様々な手法を委員の皆さまと一緒に考えさせていただければと存じます。

主な取組	実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	小中学校での環境教育	<p>小中学校の総合の学習の時間を中心に、脱炭素要素を導入し、児童生徒の地球温暖化等に関する意識向上を図る。<u>また、わかりやすく導入しやすいコンテンツ取り揃え、教職員に展開する。</u></p> <p>代表事例として、上諏訪小学校児童会整美委員会のゼロカーボン活動を「ゼロカーボン×紙再生プロジェクト」と題したコンテンツを造成。カードゲーム「2050カーボンニュートラル」を公認ファシリテーターを招いて実施し、ゼロカーボンの意味や価値等を実感するとともに、児童自らが全校に呼びかけ古紙を回収し、ペーパーラボを活用した再生をするというロールモデルを構築した。 また、これらコンテンツを取りまとめた学校教諭向け説明資料を作成し、各校に先行して展開した。 【実施結果】 教諭への説明…全10校、小学校での取組支援…1校、すわ未来創造子どもゆめプロジェクトでの説明…1回（その他アドバイス等での参加あり）、教諭向けポータルサイトへの資料掲載</p>	<p>カードゲーム「2050カーボンニュートラル」、ゼロカーボン×紙再生プロジェクト、ゼロカーボン動画等のコンテンツが複数揃ったことから、令和6年度に作成した資料や事例を基に、学校での実施を促していく。</p>	4	3	シゼロ イカー 推 進 室	<p>カードゲーム2050カーボンニュートラルを実際に体験してみて、環境と経済の好循環、協働歩調の必要性、人類全体で排出削減に向けた取り組みの必要性を疑似体験でき、改めてカーボンニュートラルの実現が大切だと気づくことができた。環境教育は若い世代の意識向上に不可欠でカードゲームのような媒体での体感はとても効果があると思う。</p> <p>→カードゲーム「2050カーボンニュートラル」体験のご感想をいただき、ありがとうございます。R7年度は環境推進会議での体験に加え、市の若手職員に対しても6月に同カードゲームによる研修を実施しました。また、小中学校教諭へも学校活動において活用できるツールである旨を紹介して活用を促しており、同カードゲームを通じて若い世代へのゼロカーボンに関する意識醸成が進むことを期待しているところです。</p> <p>先日の環境推進会議で実施したカードゲームは脱炭素への取り組みを理解するのにとても良い取り組みだと感じた。小中学校だけでなく、社会人や企業向けにも開催を企画して頂ければと思う。</p> <p>→カードゲームを体験していただき、感じていただいたとおり小中学生だけでなく、社会人にとっても有用なツールだと考えております。市でも社会人向けの開催を検討するとともに、小学校や環境推進会議、市若手職員で実施した内容を発信することで、行政以外の企業や組織でも取り入れてもらえるようPRをしていきたいと存じます。</p> <p>小中学校における環境教育の更なる推進を図る必要がある。</p> <p>→ゼロカーボンやSDGsなど新しい価値観の中で今後地域を支えていく中心となる小中学生への環境教育の推進は重要だと考えております。市内小中学校と連携を取りながら推進を図って参りたいと存じますが、さらなる推進に向けたアイデアなどございましたらご教授願います。</p>

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当 当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	意識醸成イベント及び講演会実施	くらしいきいきエコフェスタにおいて、大学生を講師として児童向けの脱炭素イベントを開催し、意識醸成を図る。	公立諏訪東京理科大学院生及び学生を講師に、電池をテーマにしての親子実験教室を開催した。 【実施結果（参加者）】 市内小学校親子13組 講師参加大学院生及び大学生15名	年齢の近い大学生及び院生が講師となることで児童にとって親しみやすく楽しい脱炭素講座になった。また、今回はメイン講師及び内容検討を大学院生及び大学生が主導する方式としたため、イベント企画運営という院生学生の貴重な体験にもなっている。一方で、実施前にゼロカーボンの意味について講師がより認識する機会を設けるといった工夫も必要と感じている。イベント自体は、市民の脱炭素意識醸成とともに学生が地元人材として地域に繋がるイベントであることから、大学と連携した取組を継続していく。	4	4	シ ゼ ロ イ カ 推 進 ボ 室	公立諏訪東京理科大学院生を講師として、総合学習内容に広く取り入れ活用できると良い。 →委員ご提案の内容について、公立諏訪東京理科大学と連携を取りながら検討して参りたいと存じます。
7	展示による普及活動	市役所ロビー、すわっチャオ、民間事業者の店舗等でパネル等の展示を行い、来場者に対しての意識啓発や普及活動を実施する。	【市役所】 6月…環境展（オンサイトPPA方式及び「みんなの家の「みどりのカーテン」」周知、脱炭素動画放映） 12月…諏訪市ゼロカーボン展：ゼロカーボンの基礎及び市民参画事業の結果報告、脱炭素動画放映） 2月…蓄エネ特集（大学及び企業の協力による丸太電池及びV2Hパネルと動画放映） 随時…1階階段前壁スペースでの脱炭素パネル展示（PPA方式周知、イベント周知、事業結果報告他）、ゼロカーボンシティ推進室執務室前での脱炭素取組ポスター展示（イベント周知及び結果報告、プラスチックごみ削減周知他） 【すわっチャオ】 10月…デコツアーリズムinすわ2024イベント周知 通年…モニターでの脱炭素短編動画の放映 【民間事業者】 諏訪信用金庫…店舗モニターでの脱炭素短編動画の放映	市役所等公共施設とゼロカーボンシティ宣言賛同事業者の店舗等での展示を引き続き併用して実施することで幅広い層への周知を継続していく。	4	4	シ ゼ ロ イ カ 推 進 ボ 室	市役所ロビーのパネル展示はとても良かった。あのスペースはもっと有効に使った方が良い。年配の方はSNSを使わないので、目に見える形が重要。公共の場の利活用をより進めたい。 →ご意見のとおり様々な年代や生活スタイルに合った情報発信を行うことが普及啓発には重要であると考えております。今後も多様な媒体での情報発信に努めるとともに、市役所ロビーや他の公共施設を活用した普及啓発活動を実施して参りたいと存じます。 もっと幅広く環境問題に興味を持ってもらうためにも引き続き公共施設などに展示を行い、展示方法も工夫しながら情報の周知継続が大事だと思う。 →今後も展示方法を工夫しながら情報の周知を継続して参りたいと存じますので、展示方法や周知手法についてお持ちのアイデアなどご提案いただければ幸いです。

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
8	各種媒体による普及啓発活動	広報すわ、HP、SNS等の媒体を活用し、脱炭素社会に向けた意識啓発や普及活動を実施する。	各種媒体での発信活動を実施 【広報すわ】 ゼロカーボン特集（6月号）、脱炭素コラム（隔月） 【市公式youtube】 ゼロカーボンをテーマとした短編動画公開 【情報発信】 公式LINE及びメルマガによる情報配信 【庁内】 庁内掲示板にて、取組内容共有	脱炭素活動に対して興味関心がない方の入り口となるよう、わかりやすさに重点を置いた普及啓発活動を継続していく。	4	4	シゼロイカ推進室	市役所ロビーのパネル展示はとても良かった。あのスペースはもっと有効に活かされた方がよい。年齢の方はSNSを使わないので、目に見える形が重要。公共の場の利活用をより進めたい。 →ご意見のとおり様々な年代や生活スタイルに合った情報発信を行うことが普及啓発には重要であると考えております。今後も多様な媒体での情報発信に努めるとともに、市役所ロビーや他の公共施設を活用した普及啓発活動を実施して参りたいと存じます。
9	市庁舎電気の実質100%再生可能エネルギー化	市役所庁舎内で使用する電力を実質100%再生可能エネルギーに転換。この取組を公共施設全体に拡充し、市役所全体で温室効果ガス排出量の削減を目指す。	7施設増の計31の公共施設で使用する電力を、実質100%再生可能エネルギーとし、ホームページやロビーでの懸垂幕による掲示により、市民への周知を図った。	【方針1-取組2公共施設への再生可能エネルギー導入及び検討】に連動する形で、実質100%再生可能エネルギーから、自然エネルギー由来の電力の地産地消へと、市役所全体で取組を推進していく。	5	5	総務課	年度ごとに再生可能エネルギー化、公共施設を明記していかなくては意味がない。検討したから良いというものではないと思う。 →現在、ホームページではどこの公共施設が導入しているか、前年度に比べて実質100%再生可能エネルギー導入施設がいくつ増えたか明記していません。今後も温室効果ガス排出量削減に向けて、各公共施設への拡充を目指していきます。
10	職場環境整備促進事業補助金	工業者における省エネルギー設備導入を促進し、工業の省エネ化を推進する。	トップランナー基準を満たす業務用エアコンの更新にかかる申請があり、省エネ化の推進につながった。 【補助実績】 1件	省エネルギー設備の導入補助について、企業訪問、補助金ガイドブック、HPへの掲載を通して、引き続き積極的な企業周知を行う。	3	1	商工課	

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
11	温泉熱発電実証実験	事業者と連携し温泉熱を活用した発電の実証実験を実施。温泉熱発電の導入可能性を検討する。	R4年度においては、新型機の開発を実施中。その為発電実績はなし。	現在新型機を開発中。開発において不具合等があり開発に時間を要している。完成後に実証実験を行い費用対効果・源湯の状況も含め導入の可否を慎重に検討する。	2	2	水道局	<p>温泉熱を利用した発電実績はあるのか、他の市町村の取組（実用事例）について伺いたい。実用化のネックになっている点についても伺いたい。</p> <p>→諏訪市においては温泉熱の発電実績はありません。近隣市町村では実例は無く、全国的に実例はありますが大規模な発電になります。実用化のネックになる点としては、諏訪市の現状に合う小型発電機が無く、費用対効果や配湯事業との維持管理等になります。温泉熱発電機の開発及び実証実験ではないですが、昨年実績からすれば、機械そのものが開発中であり、一步前へ出たくらい。</p> <p>→実証実験は今年度出来ておりませんが、開発においては一歩ずつ前進しております。</p> <p>それぞれの自宅での発電を想定しているのか、公共施設等での発電を想定しているのか教えてほしい。</p> <p>→自宅での発電は想定しておりません。温度・湯量等諸々の発電に条件が合わなければ出来ないの、源湯施設で発電を行う事を想定しております。諏訪市は温泉が自宅に置かれているお宅がどのようになっているかを検証し、計画に入れた方が良いのか再検討することも必要ではないか。</p> <p>→発電において自宅での発電は想定していない為、検証・検討は必要無いかと思えます。</p>

※終了済みの取組

主な取組		実施内容	実施結果総括	最終年度評価	担当課
-	市内再エネ導入可能性調査	市内における再エネ導入のポテンシャルや可能性について調査を実施。	R4年度不採択となった国庫補助について、R5年度に再度申請し補助金を確保。市内の再エネ導入ポテンシャルの調査を行った。結果を基に脱炭素社会実現への取組を加速させるための「ゼロカーボンシティ推進戦略」を第三次環境基本計画に追加した。	4	シゼロイカ推進室

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	2 ライフスタイルを変革しよう
取組の方向	①省エネルギーの推進 ②公共交通等の利用促進 ③ごみの減量化

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.57	3.50	3.83		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	公用車の排出炭素削減	公用車についてEV、PHEV、HV等への切り替えを検討及び実施。	公用車1台（環境課所管）を、EVへ切り替えた。 また、EVを55台保有する松本合庁において開催されたセミナーに参加し、現地視察等を行う中で、課題等の洗い出しを実施した。	EV大幅増台の実施には、電気料金の支払額を抑制するため、EV充電タイミングの平準化を図る必要がある。これにはソフト及びハードの導入が必要となるため、今後、EV増大に向け、費用対効果等を勘案する中で更なる検討を進めていく。	4	4	総務課	EV(電気自動車)は、製造時のCO2排出量が多いことが指摘されているのと共に、充電するための電力を化石燃料に頼っているのであれば、それほど環境に良いとは言えない。EVであれば環境に優しいという短絡的な発想は改めた方がいいと思う。 →令和3年の環境推進会議において検討された第三次諏訪市環境基本計画の方針では、省エネルギーの推進として、「公用車を電気自動車やハイブリッド車に順次変更します。」と明記しています。また、環境省でも温室効果ガスの排出量削減に向けて、事業者や国民が一致団結するため「COOL CHOICE」という言葉を旗印にエコカーの購入を促しています。本市としては、今後も第三次諏訪市環境基本計画の方針に従い、順次、電気自動車の導入を進めていきたいと考えています。更に公用車のEV化を図り、排出炭素削減に努力することが、広く住民の意識を変えていくことにつながる。 →1つ前の回答と同じような回答にはなりますが、第三次諏訪市環境基本計画の方針で、「公用車を電気自動車やハイブリッド車に順次変更します。」と明記しています。本市では、第三次諏訪市環境基本計画で定めたとおり、更なるEV化を図ることで、環境に対する住民意識の醸成と温室効果ガス排出量の削減を進めていきたいと考えています。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当 当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
2	エコドライブやスマートムーブ通勤等の推進	交通安全にもつながるエコドライブやスマートムーブ通勤について、市民職員等幅広い関係者に周知し、意識啓発を行う。	市職員向け交通安全研修においてエコドライブ、スマートムーブについて安全運転にもつながる旨の説明実施。新入社員歓迎大会や建設課交通安全係の街頭啓発活動の際にエコドライブチラシの配布。 広報すわ8月号の脱炭素コラム及び市公式youtubeにおいてエコドライブ周知。 デコツアーリズムinすわ2024を通してスマートムーブ通勤の推進を図った。 【研修参加者】 計27名	R7年度に実施予定の湖周3市町でのデコツアーリズムにおいてスマートムーブ通勤の一層の推進を啓発していく。 また、エコドライブの周知についても新社会人に対する周知に続く周知活動を検討する。	3	2	シ ゼ ロ イ カ ー 推 進 室	エコドライブやスマートムーブ運動等について、更に広報等により啓発を推し進めていく必要がある。 →市としても広報等、発信の場面を増やしていきたいと考えております。啓発に関わる手法のアイデアがございましたら、ご教授願います。
3	公共交通の維持と利用促進	より利用しやすい交通体系の構築、持続可能な社会を実現するため、地域公共交通計画を策定した。AIオンデマンド交通の導入やかりんちゃんバスの見直しを行い、持続可能な公共交通体系の再構築を行う。	利用者の予約があった時だけ運行する乗合型の交通である、AIオンデマンド交通（チョイソコかりんちゃん）のテスト運行を実施した。また、かりんちゃんバスの再編について素案を諏訪市地域公共交通活性化協議会に提示した。	チョイソコかりんちゃんの本格運行に向けた形態の構築。 かりんちゃんバスの再編について市民への周知の徹底。	4	4	地 域 同 戦 略 画 ・ 課 男 女	
4	ゼロカーボンアクションの浸透	関係者の脱炭素社会実現に対する意識醸成と行動の社会実装を実現するため、デコ活（ゼロカーボンアクション等）の普及事業を実施する。	昨年度に引き続き、SPOBYというスマホアプリを活用し、市民等の脱炭素移動とマイボトル活動を環境配慮活動を行う店舗等が特典付与で応援するデコツアーリズムinすわ2024と題したイベントを実施。参加事業者も6者から15者と大幅に増加。市民のスマートムーブ実施と共に、店舗における環境配慮意識の向上を図った。 【実施概要】 実施期間：R6年10月1日～R7年2月28日 参加者：810名 参加事業者：15者 活動結果：自動車移動10,740km相当分のCO2排出抑制、500mlペットボトル約2,517本相当の削減	スマホアプリをダウンロードできれば誰でも気軽に参加できる本取組は脱炭素だけではなく、健康促進や経済など多方面に対して効果が期待できるものである。 意識醸成はどの自治体でも共通課題であり、共同で取り組むことが効果的であることから、R7年度は諏訪湖周3市町で開催をする。	4	3	シ ゼ ロ イ カ ー 推 進 室	スマホアプリ（SPOBY）を活用した施策は若年層や都市部には効果的であり、弊社が運営するActivity Base Cogueでも都市部からの来訪者が特典を活用した実績がある。このことから、県外からの誘客施策として一定の効果が認められる。 →県外からの誘致に効果があったとの貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本事業を通じて、地域の皆さんはもとより県外の皆さんにも訪問先として諏訪を選んでいただけるよう努めて参りたいと存じます。引き続き、ご協力いただきますようお願いいたします。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	意識醸成ノベリティの開発と配布	市内事業者との協働により、廃材を活用した環境配慮ノベリティを製作。保全活動参加者等への参加御礼を含めた配布に活用する。	市内事業者CHAANY、商工課、秘書広報課と連携して新たなノベリティの開発を実施し、木材の端材から卓上時計を製作した。また、昨年度開発したノベリティを環境配慮活動等参加者への配布し、意識醸成を図った。 【配布イベント】 ・諏訪湖浮遊ごみ回収作業 ・ゼロカーボン実験教室 ・デコツーリズムinすわ2024 ・諏訪湖祭湖上花火大会翌日のごみ拾い ・みんなの家の「みどりのカーテン」 ・上諏訪小学校整美委員会のゼロカーボンへの取組 ・諏訪実業高校文化ビジネス講座等	ノベリティをインセンティブとして利用するとともに、関係課所での活用方法を引き続き検討し、保全活動参加者以外にも環境配慮に係る意識醸成を図っていく。	4	4	シゼロイカー推進室	
6	各種媒体による普及啓発活動（再掲）	広報すわ、HP、SNS等の媒体を活用し、脱炭素社会に向けた意識啓発や普及活動を実施する。	各種媒体での発信活動を実施 【広報すわ】 ゼロカーボン特集（6月号）、脱炭素コラム（隔月） 【市公式youtube】 ゼロカーボンクエストと題した短編動画公開 【情報発信】 公式LINE及びメルマガによる情報配信 【庁内】 庁内掲示板にて、取組内容共有	脱炭素活動に対して興味関心がない方の入り口となるよう、わかりやすさに重点を置いた普及啓発活動を継続していく。	4	4	シゼロイカー推進室	

※終了済みの取組

主な取組		実施内容	実施結果総括	最終年度評価	担当課
-	エコワットの貸出	一般家庭で電化製品の消費電力等を測定できる機器を貸出、数値の見える化によって節電意識を高める。	利用件数は低迷。冷蔵庫を代表とする家電に数年前から消費電力表示機能が標準的に装備されていることも要因と考えられる。貸出機器は古い製品であり、電気料金算出単価の修正ができないものであり、現有機器の貸出自体は継続するが、積極的な取組としては終了とする。 積極的な取組は終了とするが、省エネにつながる情報の発信や媒体等の紹介については引き続き検討し実施していく。 【貸出実績】R4年度2件、R5年度4件、R6年度2件	2	環境課
-	諏訪湖周サイクリングロード整備事業	諏訪湖周自転車活用推進計画に基づき、諏訪湖周サイクリングロードを整備。自転車活用の促進につなげる。	R5年度末で整備は完了済。R6年4月1日より供用開始した。今後は、諏訪湖周自転車活用推進協議会により、交通環境の整備充実や観光との連携、また、自転車ネットワークの構築などを検討していく。	5	計都市課
-	置き配バッグ活用実証実験	置き配バッグ活用実証実験の結果を公表、共有するとともに、県の地球温暖化防止活動推進センターの主催するながの再配達削減プロジェクトに参画し、新たな取組を推進する。	R4年度に市民モニター478名とともに実証実験を実施。その後結果を公表したことで、市民から置き配の方法について問合せが複数件あったことから、実証実験参加モニター以外への周知も進んだと想定。東京キー局のニュース番組でも扱われ、先進的取組を行う自治体というアピールにもつながった。 県のプロジェクトについては、先行実施者として学生に対しての置き配事業に対する実施方法提供や事業所での宅配荷物受取に関する周知を行った。 実証実験において効果を把握できたことから、実証実験を継続しての実施はせず、置き配に限らない再配達削減手法の普及を県プロジェクトとともに実施していく。 【R4年度実証実験結果概要】 再配達抑制率84.6%、削減CO2量約1,811kg、脱炭素社会実現への関心向上率72.2%	5	シゼロイカ推進室

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう
取組の方向	①自然災害リスクの低減 ②農業生産への影響の低減 ③健康への影響の低減

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.67	3.67	3.33		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	国土強靱化実現のためのインフラ整備	大雨の出水に備え、緊急自然災害防止事業により河川や水路の整備を実施する。	市内各地区における浸水被害低減対策のため、河川・水路改修や道水路高上げ工事を実施。 【R6年度整備】 河川改修等 4箇所 約400m	緊急自然災害防止対策事業債を継続して活用しながら財源を確保するとともに、関係者と協議・調整をしながら緊急性・必要性を考慮しつつ、効果的な河川や水路等の整備を行っていく。	3	4	建設課	県との関連事業ではあるが、大熊地区の新川改修が非常に遅れている。これにより排水ポンプ2基目の工事が遅れており豪雨災害時の上流からの排水ができず地域住民は不安を感じている。 →新川改修整備促進のための県要望を継続的に行うとともに、職員が災害時に国県から借用した排水ポンプ車を使った排水作業ができるように国県主催の排水ポンプ車操作研修に参加し災害を最小限に留められるように努めています。
2	河川管理事業	市内の山間地より流入する河川の浚渫や堆積土砂の除去を行い、流路確保と河川保全を実現する。	市内各地区における河川等の流下能力確保や環境保全のための浚渫等を実施。 【R6年度整備】 河川の浚渫 5河川 水路の堆積土砂除去 7箇所	各地区からの要望事項に配慮しながら、計画的かつ効率的な河川の浚渫を実施していくとともに、水路や側溝泥上げにおいては地元地区との協働を念頭に効果的な事業を行っていく。	4	4	建設課	
3	防災気象情報システム運用事業	地区や家庭での自然災害に備えた避難行動を助けるため、防災気象情報システム「すわそらサイト」の運用を実施。	「河川カメラ」を2箇所から9箇所に拡充するとともに、公立諏訪東京理科大学が湖南地区防災連絡協議会と協力して新たに設置した南峠雨量計を追加したことで、市民の防災情報収集機能が向上した。	日頃からの防災、災害発生時の生命を守る情報源として閲覧されるよう、市民向けに「広報すわ」や出前講座等を通じたPR活動を継続する。職員には、職員研修の際の防災項目での周知を継続する。	3	3	危機管理室	南峠に雨量計を設置して頂き、防災情報の収集機能が上がったと思う。湖南地区防災連絡協議会でも広報を行った。しかし地区住民には雨量計を設置した意図が伝わっていないような気がする。引き続き「広報すわ」での広報をお願いしたい。 →広報すわに記事を掲載するとともに、市ホームページにおいても紹介します。

基本目標 Ⅱ 水と緑と生物多様性を大切にしよう
 諏訪市を代表する自然環境である諏訪湖と霧ヶ峰、それらにつながる自然環境の保全に取り組みます。

●基本目標Ⅱに関連するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	目標値	140ha	145ha	150ha	155ha	160ha
	実績値	137ha	141ha	146ha		
	達成度	97.9%	97.2%	97.3%		
森林整備面積	目標値	105.0ha	107.0ha	109.0ha	111.0ha	113.0ha
	実績値	83.97ha	57.31	50.28ha		
	達成度	80.0%	53.6%	46.1%		
松枯損木の伐倒処理件数	目標値	15本	15本	15本	15本	15本
	実績値	26本	6本	14本		
	達成度	173.3%	40.0%	93.3%		
木材搬出面積	目標値	33.5ha	34.5ha	35.5ha	36.5ha	37.5ha
	実績値	27.31ha	23.46	18.54ha		
	達成度	81.5%	68.0%	52.2%		
農業の担い手への農地集積率	目標値	39.3%	41.7%	44.7%	47.6%	50.0%
	実績値	37.3%	37.6%	38.2%		
	達成度	94.9%	90.2%	85.5%		

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.54	3.58	3.62		
4 泳げる諏訪湖を取り戻そう	3.75	3.78	3.78		
5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	3.43	3.57	3.71		
6 森林・里山・農地を守ろう	3.22	3.22	3.22		
7 生物多様性を保ち高めよう	3.75	3.75	3.75		

考察	<p>■霧ヶ峰高原の学生による保護及び啓発活動は、R5年度から少しずつコロナ禍以前の規模に戻して実施できるようになり、R6年度も引き続きコロナ前の規模で実施できるようになっている。活動期間中の指導件数が落ち着いていることから、一定の役割を果たしていると考えられるが、一方で実施期間外の冬季の問題などが発生しており、通年を意識した啓発活動の必要性が明らかになってきた。</p> <p>■諏訪湖のごみ問題は、諏訪湖創生ビジョンによる継続した活動によりデータが集まってきている。今後はこれら活動により明らかとなってきたことについて、積極的に周知していくことも検討する必要がある。</p> <p>■森林整備には地元住民の理解を得る必要もあり、計画通りに進めることが難しい面もあるが、引き続き整備を進めていく必要がある。</p>
----	---

意見の対象	意見	回答
基本目標2	TOYOTA SOCIAL FESのような大きなものだけでなく、小さなボランティアも行ける可能性があるので環境推進会議委員にも教えてほしい。できるかぎり色々な方に共有したいと思う。	ありがとうございます。ご意見をいただき、現在環境推進会議の委員の方には環境保全活動の情報提供を始めたところです。ぜひ各所属団体の方へも周知していただき、ご参加いただければと思います。

基本目標	II 水と緑と生物多様性を大切にしよう
方針	4 泳げる諏訪湖を取り戻そう
取組の方向	①諏訪湖と流入河川の水質保全 ②諏訪湖の景観保全と美化 ③諏訪湖の生態系を回復させる

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.75	3.78	3.78		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	河川水質検査	諏訪湖に流入する河川の水質検査を実施し、生活排水の適正処理が行われているか等を確認する。	定期的な水質検査を実施すると共に結果をHP上に公開している。市内河川の水質は良好である。 【検査回数】 年2回（5月、11月）	定期的な検査の継続が必要。市内の準用河川及び普通河川を年5河川ずつローテーションで検査する。	4	4	環境課	
2	ヒシ取りの実施	TOYOTA SOCIAL FES!!として信濃毎日新聞社と共催によるイベントを実施。参加者とともにヒシ取りを行い、景観、船舶運航の対策をするとともに、参加者の意識醸成につなげる。	信濃毎日新聞社と共催でヒシ取りを実施。90名の参加があり、0.85tのヒシを除去することができた。ヒシ取りの前に学習会の時間も設け、参加者がヒシについて学ぶ機会とすることができた。 【参加者】 TOYOTA SOCIAL FES!! 90人	R7年度も同イベントを企画している。内容がより良いものになるよう検討しながら、引き続き官民連携して、諏訪湖の環境改善を推進していく。	3	3	環境課	自分は実際にコグー様とカヤックでヒシ取りをしているが有効であると感じる。また同イベントは複数回で場所を変えてやるべき。産官学をまきこみ仕組みを作って有志を募ればヒシ問題（ヒシの低密度管理）は必ず解決する。 →ヒシ取りイベントは、諏訪市だけではなく、湖周の自治体や県なども主体となり行っています。関係者とも情報共有しながら取組を続けていきます。ヒシを堆肥に活用できると聞いたことがあるが、ヒシを堆肥化して販売する事業化によりヒシ除去費用を賄えないか。除去事業者を支援する取組はあるのか伺いたい。 →県にはヒシ除去を含めた環境保全活動に対する助成制度はありますが、対象がボランティア団体等とされています。諏訪市では回収したヒシを堆肥化しており、堆肥化する費用は諏訪市で負担していますが、堆肥については提供して頂けることになっています。完成した堆肥の活用方法も今後検討していきたいと考えています。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
2	ヒシ取りの実施						環境課	<p>弊社が取り組む「諏訪湖クリーンプロジェクト」では、協賛企業との合同清掃イベントとして、カヤックによる参加型のヒシ除去活動を企画中である。楽しみながら環境保全に関わる体験型プログラムとして、市民や観光客の参加促進にもつながると考え、今後の連携支援を提案したい。</p> <p>→提案ありがとうございます。連携支援の内容等確認させて頂きながらより良い方法を検討していきたいと思えます。</p> <p>ヒシ回収にはできるだけ参加したいと思っているので、今回のTOYOTA SOCIAL FESのように環境推進会議委員へも情報発信してもらい、自分からも色々な方に広めていきたい。</p> <p>→現在環境推進会議の委員の方には環境保全活動の情報を提供させていただいています。ぜひ各所属団体の方へも周知していただき、ご参加いただければと思います。</p> <p>ヒシ取りの学習会を開催して90名の参加があったとのこと。学習会を小中学校まで行うことはできないか。ヨットハーバーではサッカーなど行う子ども達が多い中で、諏訪湖が身近になっているので、子ども達参加の学習会も良いと考える。</p> <p>→TOYOTA SOCIAL FESは小学校4年生以上を対象として開催しましたが、今後、小中学校での学習も含めてより広く知っていただくための実施方法を検討してまいります。</p>

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
3	諏訪湖創生ビジョン推進会議による活動	県が主導する会議の構成員として、ヒシ取り、ごみ調査といった活動に参加するとともに、その活動を外部に伝えていく。	7/13のヒシ刈りに職員2名が参加、11/9にはごみ調査活動に職員5名が参加した。環境美化を図るとともに諏訪湖畔に打ち上げられたごみの傾向を調査する活動を実施。 【ごみ調査分析結果】 ヒシ刈り：初島周辺にて7/12, 13, 19, 20実施（除去量8.5t） ゴミ調査：プラスチック製品由来のごみが約9割。内7割以上が劣化し細かくなったビニール片やプラスチック片。	引き続き県と協力して活動を行っていく。継続して活動したことにより明らかとなってきた課題については市民へ周知する方法を検討していく。	3	3	環境課	ビジョンに基づく環境美化や湖の再生施策は、体験型観光と連携することで市民・観光客の理解促進と関与が期待できる。持続可能な観光モデルとして、アクティビティ事業者との協働枠組みの整備を提案したい。 →創生ビジョンに情報提供したいと思いをします。 ヒシの繁殖する条件に、湖沼の水深が浅くなってきていることが影響していると言える。現在諏訪湖は河川から流れ込む土砂により埋まり、浅くなってきている状況が顕著になってきて浅瀬のヒシの繁殖がひどい状況。県や国へ積極的に働きかけ、浚渫工事を推し進めていくことが第一である。 →諏訪湖創生ビジョンに諏訪湖の浚渫について検討するワーキンググループのあり、当市も構成員となっており、関係者とも情報共有しながら、浚渫についても検討して参ります。
4	諏訪湖浮遊ごみ回収	参加者を募集し、諏訪湖及び流入河川河口付近にてカヤックに乗船し浮遊ごみの回収作業を実施。諏訪湖の環境改善とともに参加者の意識醸成を行う。	9/7（土）に作業を実施。実施後のアンケートでは子どもの感想として保護者が回答しているものも多く、親子で諏訪湖について話をするきっかけになったことがうかがえる。 【参加実績】 9/7 58人	R7年度も9/6に実施予定。諏訪湖のごみの問題を感じると同時に、浮遊ごみがどこから来たのかなど、見て感じたことについて理解を深める工夫も検討していく。	5	5	環境課	実際に参加したがゴミはほとんどなかった。人数規模も多いのでヒシ取りに専念した方がいいと感じた。集まった参加者も口々にゴミが無いと言っていた。何か工夫が必要。 →本事業は諏訪湖の浮遊ごみの状況を肌で感じ、意識を高めていただくことを目的としていますが、実施場所によってはゴミが少ない場所もありました。今年度以降の実施の際にはごみの様子を見て実施場所を決定したいと思います。 カヤックツアー中に浮遊ごみを発見することが多く、弊社が取り組む「諏訪湖クリーンプロジェクト」の一環として浮遊ごみの回収を日常的に行っている。ごみ拾いと観光体験を結びつけた「諏訪湖クリーンカヤック」などを公式な連携事業として支援していただくと実施がしやすい。 →内容等確認させて頂きながら、当市として支援可能な方法を検討していきたいと思いをします。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	散乱ごみのない美しいまちづくり事業	霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心に不法投棄されたごみの回収作業を実施し、不法投棄の連鎖発生を阻止する。	年75回のパトロールにより、不法投棄されたごみの回収を実施した。 【回収量】 可燃ごみ288.5kg（昨年比-107.5kg） 不燃ごみ98.2kg（昨年比-27.2）	引き続き不法投棄の多い霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心にパトロールを実施する。引き続き広報すわ特集記事を掲載予定。また、メディアの活用なども含め、市民の不法投棄への関心を高め、環境美化につながる取組を実施する。	4	4	環境課	諏訪湖畔エリアでは、ペットボトルや弁当容器などの散乱ごみが見受けられ、多くは周辺事業者が自主的に回収・処分している。観光地としての景観維持の観点からも、公共ゴミ箱の設置や啓発看板の整備を提案したい。 →ご提案いただきありがとうございます。公共ゴミ箱は、家庭ごみ・事業ごみといった本来の目的とは異なるごみの持ち込みや不法投棄を誘発する恐れがあるとの理由から撤去されてきた経過があります。とはいえ、市としましても散乱ごみを減らし、美しい景観を守りたいという考えは委員と同様ですので、現在推進しておりますごみの持ち帰りに関する啓発を強化していきたいと思っております。
6	小型合併処理浄化槽設置補助	下水道への接続が困難な地域における小型合併処理浄化槽設置に対し補助を実施。生活排水の適正処理を推進する。	市民に対し、小型合併処理浄化槽設置に対する補助を行った。 【補助実績】 R6年度 補助実績なし	諏訪市は下水道普及率が非常に高く、浄化槽の新規の設置件数は少ないが、引き続き小型合併処理浄化槽設置補助を行い、生活排水の適正処理を推進する。	4	4	環境課	
7	公共下水道接続促進	99%を超える下水道計画区域内普及率を誇る既設インフラの効果を十分発揮するため、接続可能区域内における下水道接続を促進する。	未接続者に対して状況把握のための意向調査を基に、職員が継続的に未接続世帯に戸別訪問し聞き取りを実施した。 【実績】 R5年度 戸別訪問524件 接続数24件 R6年度 戸別訪問280件 接続数25件	地形上の制約、接続義務者の年齢や経済的状况等を勘案すると困難が予想される案件が多いが、継続的に説明等を行う。	3	3	水道局	
8	農業等適正使用推進	農家に対して農業の適切な使用の指導及び監視を実施する。	年2回水稻育苗教室の開催に併せて、指導会を開催した。 【開催実績】 4月、6月	県やJAなどの各関係団体の意向を伺いながら、継続的に指導会を開催し、農家に対して農業の適切な使用の指導及び監視を進めていく。	4	4	農林課	
9	団体等による美化活動支援	清掃ボランティアに対してごみ袋を提供するなどし、民間団体による美化活動を推進する。	各地区、個人、団体が清掃活動を行うにあたり、要望に応じた枚数のボランティア袋及び草類袋を提供した。	今後も各地区や多くのボランティア団体による自発的な清掃活動を後押ししていくため、継続的なボランティア袋及び草類袋の提供を行う。	4	4	環境課	

※終了済みの取組

主な取組		実施内容	実施結果総括	最終年度評価	主担当課
-	守屋山トイレ整備事業	観光地としての魅力向上のために自然環境に配慮したバイオトイレを整備し、汚水の適切な処理を実現する。	守屋山水呑場に自然環境に配慮した快適で衛生的なバイオトイレを整備。汚水の適切な処理を実現した。整備事業は終了。令和5年度からは観光課により適切な維持管理を行っていく。 【整備施設概要】小便器2、男女兼用洋式1、多目的洋式1、女性専用洋式1	4	農林課
-	諏訪湖浄化対策連絡協議会による活動	LCV-FMを活用し、浄化啓発CM放送を実施。広域での意識啓発を実施する。	諏訪湖浄化対策連絡協議会としてLCV-FMを活用し、浄化啓発CM放送を実施していたが、R5年頃から活動の大部分を諏訪湖創生ビジョンに集約してきた。現在諏訪湖浄化対策連絡協議会は6市町村長や県の担当者が一堂に会し意見交換をすることが主な目的の場となっている。積極的な意見交換は引き続き行っていく。	3	環境課

基本目標	II 水と緑と生物多様性を大切にしよう
方針	5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう
取組の方向	①草原の維持保全対策の推進 ②霧ヶ峰の生態系の維持 ③歩道等の利用施設の維持管理

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.43	3.57	3.71		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	霧ヶ峰草原再生作業の実施	霧ヶ峰の森林化を抑制し、草原の保全を実現するため、関係団体及び市民等と共に、雑木処理等の作業を実施する。	一般ボランティア、関係団体とともにそれぞれ100人を超える規模で春と秋の2回開催。草原の保全に貢献することができた。 【参加者人数】 236名（R5年度 247名）	引き続き関係団体と連携しながら、活動を続けるとともに、活動を通して、草原保全のための意識を高めていく。	4	4	環境課	
2	霧ヶ峰高原における特定外来生物駆除の実施	霧ヶ峰自然環境保全協議会と共催で、高山植物の生育を阻害する特定外来生物駆除作業を実施する。	R6年度はオオハングンソウ駆除作業を3回実施した。 【実施実績（日付、人数、結果）】 (7/9 35人1,650kg、8/6 44人1,250kg、8/28 17人250kg)	広大な霧ヶ峰高原の外来生物駆除には関係者の連携が必要である。引き続き県や関係団体との連携による作業を実施していく。	3	3	環境課	現在第三次計画の中では、オオハングンソウの除去が行われている。その繁殖力を考えれば、粘り強い取り組みが必要と思うが、3年間の成果（状況の変化）は、具体的にどのようになっているのか。作業の実施回数と参加者は報告されているが、その効果を具体的に知りたいと思う。 →作業ごとの効果については報告されていませんが、霧ヶ峰自然環境保全協議会で、駆除作業をした場所と駆除しなかった場所と比較するモニタリング調査を実施した結果、駆除作業をした場所では、オオハングンソウの優占度が低下したという結果がでています。この調査結果を元に駆除作業を実施しています。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
2	霧ヶ峰高原における特定外来生物駆除の実施（続き）						環境課	本来霧ヶ峰になかったという意味での外来植物は何種類もあるが、その中で現在駆除対象と考えている外来植物は何か。またそれらの分布状況（概要）はどのようになっているか。例えば道路沿いのフランスギク、ハルザキヤマガラシ、ヒメジョオンなどは、だいが目につく。まず対象と現況を明確にしないと対策も立てられないと思う。 →強清水から霧ヶ峰インターチェンジ、富士見台、白樺湖方面に向かって、フランスギク、ハルザキヤマガラシ等分布しています。県が事務局になっている霧ヶ峰自然環境保全協議会の作業部会では対象と現況を明確にし、活動しています。ボランティア募集もしているので是非ご参加ください。
3	霧ヶ峰関連団体との連携	霧ヶ峰自然環境保全協議会（霧ヶ峰みらい協議会）、霧ヶ峰草原再生協議会へ参加、情報交換を行うとともに、外来生物駆除等作業に参加する。	各協議会に参加して、情報交換を行い、課題を共有しながら、外来生物駆除等作業に参加。（全6回）	広大な霧ヶ峰高原の保全には関係者の連携が必要である。特に担い手である協議会に継続参加し、連携した取組を継続していく。	4	4	環境課	
4	諏訪市自然環境保全条例の運用	無秩序な開発等による自然環境への影響を阻止するため、条例に沿った指導及び対応を行う。	対象となる大規模開発はなかったものの、問い合わせに対して情報提供を行った。	開発行為に対しては、慎重な対応が求められる。他条例と合わせて適切な指導及び対処が必要となる。	3	3	環境課	
5	霧ヶ峰高原の学生による保護及び啓発活動	学生ボランティアによる研究を兼ねたパトロールを実施すると共に、その結果を踏まえての啓発活動を行う。	7・8月のハイシーズンに千葉大学・信州大学・東邦大学の学生52名を任用し、国天然記念物霧ヶ峰植物群落のパトロールを実施した。来訪者への天然記念物の周知、立入の監視や注意喚起等を行い、霧ヶ峰の保護及びその意識醸成につなげた。	近年はパトロールにおける指導件数は落ち着いており、来訪者の自然保護意識の向上に一定の役割を果たしていると考えられるが、冬季の立入りなど学生の活動時期外での問題が発生しており、通年を意識した啓発活動の必要がある。	4	3	生涯学習課	千葉大・信大・東邦大と遠方の大学の学生が関わっているとのことだが、地元の諏訪東京理科大の学生にもぜひ声をかけて頂ければと思う。 →地元の人々にも関わってもらう必要性については認識しており、また長年の活動の中で今後の活動方法について課題も出ているため、地元の学生の参加についても手法を検討したいと思えます。 湿原への立ち入り防止などの啓発活動に、学生ボランティアは大きく貢献しているが、休みの時期との関係で、冬季は難しい。一方霧ヶ峰パークボランティアは、人数は限られているが通年で活動している。お互いに連携を取りながら活動が進められれば良いと思う。 →パトロール成果を提供して情報共有を図ることや、現場での情報交換など、連携方法についてパークボランティア様とご相談してみたいと思います。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	霧ヶ峰の湿原保護のための木道整備	観光客等多くの方が訪れる湿原への立入を阻止、保全するための木道を継続整備する。	H17年の設置から年数を経過し老朽化が進んでいる八島湿原北側の木道を、自然環境整備支援事業補助金（県補助）を活用し改修した。 【実績】 事業額：4,378,000円 補助額：945,000円 改修延長：47.9m	R6年度事業で八島湿原の対象区間の改修は完了したため、委員からも要望があった車山湿原の未施工部分における木道の新規設置に取り組む予定。既施工部分については今後も老朽化に注意し維持管理に努める必要がある。	5	5	生涯学習課	湿原の周囲の遊歩道の整備は毎年少しずつ進められており、引き続きお願いしたい。また湿原以外の遊歩道についても、所々荒れているところがある。歩きにくく危険だけでなく、土砂の流出や、迂回による草原内への立ち入りなど、草原の保全にも問題を生じているところがある。草原の環境に配慮しながら、順次整備をお願いしたい。 →遊歩道整備については計画性と優先度を勘案しながら継続して整備を進めてまいります。 →湿原以外の遊歩道については、年間通じて定期的に点検しており、危険箇所等を発見した際には随時対応しているところです。今後も引き続き点検を継続していきます。（観光課回答）
7	ニホンジカによる食害対策	ニホンジカによる高山植物の食害を阻止するため、県及び地権者と共に電気保護柵を設置、維持する。	県が主体で行う電気保護柵設置作業等に協力した。	今後も県に協力し継続的に作業を実施。高山植物の食害を阻止していく。マンパワーに頼る部分が多い点は課題である。	3	3	環境課	

基本目標	II 水と緑と生物多様性を大切にしよう
方針	6 森林・里山・農地を守ろう
取組の方向	①森林・里山の整備 ②農地の有効利用

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.22	3.22	3.22		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	森林づくり事業 (市有林)	諏訪市森林経営計画に基づき、市有林の整備を実施。健全な森林管理を実現する。	蓼の海公園近くの市有林等にて、諏訪市森林経営計画に基づき、カラマツの伐採等を行った。 【事業実績】 19.23ha	R7年度以降も、R6年度実施箇所の続きの市有林を整備していく予定。	4	4	農林課	
2	森林づくり事業 (団体有林等)	各山林関係団体の経営安定化と積極的な森林整備を促進するため、国・県の補助に加えて高上げ補助を実施する。	国・県の補助に加え、諏訪市高上げ補助を実施し、各山林関係団体の森林整備を促進した。 【補助実績】 5団体4,461,250円	例年秋頃に各山林関係団体から翌年度事業のヒアリング（翌年度の施業希望内容や補助金活用の有無の確認等）を行っており、今後も団体の状況を確認しながら進めていく。	4	4	農林課	
3	森林経営管理等推進事業	森林整備が行き届いていない個人有林などについて、市が代わって森林経営・管理を実施する。 また、松くい虫被害防止のため、松枯れ巡視を実施する。	四賀細久保地区の個人有林の森林整備を実施した。また、松枯れ巡視等を実施し被害防止のため枯損木を伐採した。 【事業実績】 森林整備9.14ha 13,830,080円 枯損木伐採14本	四賀地区の個人有林で手入れが進んでいない森林について、引き続き当事業を実施していく。 今後も松枯れ巡視を実施して、松くい虫被害防止する。	3	3	農林課	松枯れに対しては農林課で伐採・シートがけ等、素早く対応して頂いて感謝している。しかし、未然に防ぐ対応も検討して頂きたい。松くい虫の被害が拡大するとシイタケの生産に甚大な被害になる。 →広報やホームページ、森林関係団体への周知と松枯れの速やかな伐採を継続して実施し、予防対策についても研究していきます。
4	諏訪平土地改良区農地 基盤整備事業	競争力の高い稲作地帯を目指し、生産効率の向上や維持コストの削減を図り、農業経営が持続できる環境を整備する。	R4年度に国から当事業が採択され、月1回程度の実行委員会を開催し、担い手への農地集積や集約によるほ場の大区画化を進めている。また、事業区域を3分割し、R6年10月からR10年3月頃までの工事が開始された。	集積及び集約をさらに推進する。 工事が開始されたこと、並びに第2工区については、必要箇所において換地を行うため、県及び土地改良区と協力して進める。	3	3	農林課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	林道整備事業	林道の舗装新設とともに、土砂崩落を防止し、安全性を高めるため、法面への擁壁設置を実施する。	①林道日向入山線では林道横断暗渠水路の堆積土砂撤去及び舗装を行った。また、②林道腰越大原線でも舗装を行い林道の安全性を高めた。 【事業実績】①堆積土砂撤去、舗装①50m②55m	その他の林道においても、必要箇所の舗装や法面への擁護壁設置等により安全性を高めていく。	3	3	農林課	林道日向入山線では毎年、現地踏査を行い対応をして頂き感謝している。しかしながら林道日向入山線維持管理組合（7林野組合）も地元負担金一部を支出して工事を実施しているが、予算的に修復工事が必要な箇所全ての工費を一度に出すことが不可能であり修復工事に全て実施することができない。出来る限り市の予算を確保して頂きたい。 →林道日向入山線の維持管理にご協力をいただき感謝申し上げます。今後も現地踏査を実施し、皆様と必要箇所の確認及び協議を行いながら、優先順位を設定して、予算確保に努めて参ります。
6	農道・農業用水路整備事業	市内農地での安定した耕作のため、農道及び農業用水路を整備する。併せて、揚水ポンプ設置に対する補助を実施する。	上諏訪地区を含む3地区において水路工事等を実施。また、①福島区、②神宮寺農地管理組合へポンプ設置補助を実施。 【ポンプ補助実績】 ①22,000円 ②308,000円	地元からの要望を確認しながら、農道及び農業用水路の整備や揚水ポンプ設置の補助を行っていく。	3	3	農林課	
7	諏訪市自然環境保全条例の運用（再掲）	無秩序な開発等による自然環境への影響を阻止するため、条例に沿った指導及び対応を行う。	対象となる大規模開発はなかったものの、問い合わせに対して情報提供を行った。	開発行為に対しては、慎重な対応が求められる。他条例と合わせて適切な指導及び対処が必要となる。	3	3	環境課	
8	森林学習の実施と充実	講座等を活用し、諏訪市が貴重な自然資源を有していることを伝える。また、効果的な森林学習実施につながるよう、森林体験学習館で使用する道具の更新を行う。	「自然と遊ぶつどい」と題し、体験イベントや講座を実施。森林体験学習館を起点とした大見山散策、周辺で採取した木の葉や間伐材を使用したものづくりなどを通じて自然資源の魅力発信につながった。また、より充実した工作体験ができるよう穴あけ、切断、研磨用機材を整備した。 【講座参加実績】 延べ64人、第1回23名、第2回12名、第3回21名、第4回8名	森林体験学習館の魅力をどのように発信するかが重要。インスタグラム（公民館所管）を活用し、また公民館において工作体験や作品展示及び紹介展示を行うなど、引き続きPRIに努め森林体験学習館の利用者増を図る。	4	4	生涯学習課	温室効果ガスを吸収する自然環境の大切さを学べるイベントや講座をより多くの幅広い年齢の方に体感してもらう企画、実施が重要だと思う。 →「自然と遊ぶつどい」と題して自然に触れ合い、木の葉や間伐材を利用するものづくりを目的で講座を行ってきました。今後自然環境の大切さを学べる講座を企画・実施していきたいと考えます。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
9	荒廃農地化の抑制	農地の耕作放棄による荒廃を防ぎ、健全な農業の継続を実現するため、農業委員等と連携し、土地所有者と農地を探す人とのマッチングを行う。	農業委員会による年2回の農地パトロールを実施し、耕作放棄地所有者へ意向調査を行った。 【開催実績】 8月、11月	耕作放棄地解消を図るため、耕作放棄地所有者と農地を探している人とのマッチングの体制づくりを進めていく。	2	2	農林課	耕作放棄地所有者への意向調査では、どのような意向が出ているか。農地を探している人とのマッチングについて、どのような方法を検討されているのか、また、課題としてあがっていることがあれば教えていただきたい。 →意向調査では、農地の貸借の際に間に立つ中間管理機構の利用を考えている方や、当面は草刈りなどを行い自己管理をしたいと思っている方が多く見られます。調査結果を受け、農業委員会の委員が橋渡しの役割を担うなどしてマッチングがスムーズに進むよう体制づくりを更に進めていきます。中間管理機構の事業など農地に係る制度の啓発が課題であり、相談があった際など場面を捉えて周知に努めて参ります。

基本目標	II 水と緑と生物多様性を大切にしよう
方針	7 生物多様性を保ち高めよう
取組の方向	①生物多様性の理解促進 ②生物多様性保全・再生の推進

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.75	3.75	3.75		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	特定外来生物駆除の実施	市民と共に上川等に繁殖する特定外来生物駆除作業を行うことで、駆除を推進すると共に、参加者が現場に出て体験するという効果的な意識醸成を実現する。	県や住民ボランティアとの協働により、上川や諏訪湖畔、霧ヶ峰高原にて外来生物駆除作業を実施。 【実施実績（日付、場所、人数、結果）】 アレチウリ駆除(6/15上川6人10kg) オオハンゴンソウ駆除(7/9霧ヶ峰35人1,650kg、8/28霧ヶ峰17人250kg、7/31諏訪湖畔9人290kg)	特定外来生物の駆除には多くの労力と長い時間が必要。毎年継続的な駆除活動を行うとともに、広報やHP等で市民への周知を行う。 駆除作業の参加者確保が課題としてある。広報やHP, LINEなどを活用し、市民に駆除作業の情報が届くよう取り組む。	3	3	環境課	特定外来生物駆除は、どの程度行わなければならないという基準や目標はあるのか。 →特定外来生物駆除の目標は根絶と生息範囲拡大の防止です。また根絶を目指す場合は抜き取りで年一回以上、生息範囲の拡大防止を目指す場合は刈り取りで年3回以上が長野県より推奨されています。 特定外来生物の駆除作業はボランティアが集まりにくいのではないかと予想されるが、募集の際はどのような工夫をされているのか。また、現在はどのような方がボランティアとして参加されているのか。 →ボランティア募集の広報については、市HPや市公式LINE、広報すわなどで広く広報しています。今年度は新たにボランティア証を発行することで、駆除作業に関心を持ってもらえるように工夫をしたところです。ボランティアとして参加される方については、年齢・性別問わず環境保全活動に関心のある方が参加をされています。
2	生物多様性に関する情報の発信	ロビー展示、広報紙を活用し、特定外来生物を中心に生物多様性に関する情報を発信し、意識醸成を実現する。	5月・6月の2か月にわたって広報すわに特定外来生物の生態や駆除方法などをまとめた特集ページを掲載した。	引き続き広報すわ5月、6月号にて特集ページを記載すると共に、ロビー展示やHPなどを活用し、生物多様性に関する情報を発信していく。	4	4	環境課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
3	有害鳥獣対策	諏訪市猟友会や諏訪市鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣駆除の他、諏訪市鳥獣被害対策協議会に対し、鳥獣駆除及び侵入防護柵設置の支援を行う。	諏訪市猟友会や諏訪市鳥獣被害対策実施隊により有害鳥獣駆除を実施した他、各種団体による侵入防護柵設置の支援を行った。 【捕獲・設置実績】 シカ634頭 イノシシ39頭 犴5頭 侵入防止柵 L=2,000m	有害鳥獣駆除を継続実施する他、各種団体からの要望を確認し、進入防護柵の設置を進めていく。	4	4	農林課	各林野組合に対しては鳥獣ネットは希望組合には支給していただいているが、個人の鳥獣被害対策は全て個人負担。それについても補助をお願いしたい。 →防護柵設置は国庫補助を活用していますが、補助メニューが団体への補助となっており、個人に対する補助は困難な状況です。団体を通じて防護柵設置の希望をいただき、補助を活用いただければと考えます。 西山地区の中央道上の畑についてはサル被害で作物を作ることが難しくなっている。R6年度はサルも5頭を捕獲したとこだが、20匹以上の群れで動いているので追いつかない。追い払うために一日中は畑にいることは不可能。サルにGPSを付けているということだが、この情報を対象者にも公開して頂きたい。 →GPSによる調査につきましては機器の故障等の理由により既にデータ収集はしていません。リアルタイムデータでないこともあって一般への公開は考えておりません。なお、現在はセンサーカメラによる調査を実施し動向の把握に努めています。
4	外来魚被害緊急対策事業補助	2市1町で諏訪湖漁協へ補助金を交付し、ブラックバス、ブルーギル等外来魚による漁業被害の防止を図る。	2市1町で諏訪湖漁協へ補助金を交付し、諏訪湖漁協による外来駆除事業を実施した。 【駆除実績】 75,992匹 2,804.9kg	諏訪湖漁協からの意向を確認しながら、2市1町で諏訪湖漁協へ補助金を継続交付し、今後も外来駆除を進めていく。	4	4	農林課	

基本目標	Ⅲ 安心で快適な暮らしを守ろう 市民が安心・安全に、そして快適に暮らせる生活環境の確保に取り組みます。
------	---

●基本目標Ⅲに関連するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
防災メールの登録者数	目標値	9,100人	9,200人	9,300人	9,400人	9,500人
	実績値	7,927人	8,172人	8,315人		
	達成度	87.1%	88.8%	89.4%		
諏訪市防災気象情報システムアクセス数	目標値	80,200件	80,400件	80,600件	80,800件	81,000件
	実績値	60,348件	105,493件	175,521件		
	達成度	75.2%	131.2%	217.8%		
講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	目標値	32%	34%	36%	38%	40%
	実績値	10%	29%	37%		
	達成度	31.3%	85.3%	102.8%		
文化遺産関連の保存活動に参加した人数	目標値	93人	96人	99人	102人	105人
	実績値	146人	185人	370人		
	達成度	157.0%	192.7%	373.7%		

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.56	3.52	3.42		
8 安心で健康に暮らせるまちをつくろう	3.67	3.60	3.40		
9 快適でうるおいのあるまちをつくろう	3.44	3.44	3.44		

考察	<p>■諏訪市防災気象情報システムは、R5年度に親しみやすい名称と見やすい表示への変更をしたことでアクセス数が増え、R6年度もアクセス数が目標を上回るペースで増えている。また、目標には達していないものの防災メールへの登録者数も増えており、市民の意識が高まってきているといえる。</p> <p>■空き家、空き地の適正管理推進のため、R6年度から地域おこし協力隊を任用し、空き家の掘り起こしを積極的に実施した。その他空き家の見学会やロビー展示も実施。今後は空き家需要についても調査し、利活用や再生に繋げる取り組みを推進する必要がある。</p>
----	---

意見の対象	意見	回答
基本目標3方針8	防災メールの登録者数は年々増加していて良いことだと思うが、単純に喜ぶことはできない。高齢者など登録できない方もいる。「広報すわ」では聞き取れない場合もあるので民生委員の方や近隣の方々の力が重要になると思う。	災害時要援護者避難支援計画に基づき、市健康福祉部や区、民生児童委員、市社協などと連携を図り、高齢者や障がい者など支援が必要な方の対応を進めます。
基本目標3方針8	いつ地震や災害が起こるか分からない中で、その為の防止策が市民に反映されていない。各家庭に災害の段階に応じての対応の仕方を配布する、SNSを活用する等、年齢に応じて反映される方法を考えた方が良いと思う。	市民の災害対応や防止策については、市マルチハザードマップの全戸配布や広報すわ、市ホームページなどを通じて周知を進めていますが、ご意見のとおり、市民によっては対策が進んでいない点も見受けられます。改めて、ハザードマップの全戸配布や周知・浸透する手段の検討を行い、市民の災害対応（自助）が進むよう取組みます。
基本目標3方針8	もし、諏訪が災害がおきた場合、市民の人達をどこまで受入られて対応できるのか。連絡網や連絡先、食料や水の確保、仮設住宅準備段階での現状を知りたい。	災害発生時は、各地域で必要に応じて、広域避難所や一次避難所を開設しますので、地域ごと全ての被災者を避難所などへ避難誘導します。食糧や水など災害用備蓄品は、市でもある程度は、備蓄・更新を行い、不足する備蓄品は、今後も数量を増やしていく予定ですが、各家庭でも災害に備え7日分の非常用備蓄品の準備は必要です。また、仮設住宅建設予定地は、市内の公共施設敷地10箇所を候補地として事前に計画しています。
基本目標3方針8	市民が地図により災害危険地域の把握をできるようになっているのか。自分の生活している場所の情報と万が一災害が発生した場合に避難できる場所を事前に把握する方法はあるのか。	市内の災害危険地域や各地域の避難所は、市マルチハザードマップ、市ホームページ、市地理情報システム「すわなび」で確認できます。また、ハザードマップの見方や活用、日々の防災対策などについて、その都度、お問合せ・ご相談に応じており、要請があれば各地域で出前講座なども開催しています。

基本目標	Ⅲ 安心して快適な暮らしを守ろう
方針	8 安心して健康に暮らせるまちをつくらう
取組の方向	①水源の確保と保全 ②公害等の発生防止 ③災害の防止

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.67	3.60	3.40		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	特定建設作業、特定工場への対応	大きな騒音等の発生する特定建設作業及び特定工場について届出の徹底と必要に応じた指導を実施し、住民の安心できる生活環境を確保する。	提出された各届出について内容を確認し、必要に応じて指導等を行った。 【届出実績】 特定建設作業 騒音0件、振動0件 特定施設 騒音1件、振動1件	届出が出てきた場合には、周囲への配慮等指導を行う。	3	3	環境課	
2	自動車騒音測定と面的評価の実施	法に基づき道路交通センサスの調査区間を基本とした幹線道路を中心に自動車騒音測定及び面的評価を実施し、その状況を把握する。	自動車騒音測定及び面的評価を実施し、その状況を把握、市HPにて結果を公表した。 【実施状況】 一般国道20号2.7km 県道諏訪湖四賀線3.8km	継続して道路騒音状況の把握を行う。	3	3	環境課	
3	公害の苦情対応	大気汚染（野焼き含む）、水質汚濁（油の流出含む）、騒音、振動、悪臭などの公害に対応し、生活環境の保全に努める。	大気汚染、水質汚濁、騒音、振動などの苦情に対し迅速に対応し、改善指導を行った。 【対応件数】 大気汚染16件、水質汚濁19件、騒音15件、その他8件（振動、悪臭等） 合計59件+公害以外8件	引き続きの対応をしていく。立場の違う住民の相互理解が必要となることから、意識変革を含めた広報等を行う。	4	4	環境課	
4	避難所等公共施設への再エネ導入	避難所となる公共施設において、災害時の電源使用を可能とする再生可能エネルギー導入の手法について検討し導入を行う。	広域避難所4箇所（上諏訪小学校、上諏訪中学校、湖南小学校、諏訪西中学校）への太陽光発電設備と蓄電池設備等の設置について環境課と検討、協議した。	広域避難所4箇所は、R7年度にゼロカーボン推進室が事業者を選定しR8年度から稼働予定。他の公共施設の改修工事等で防災関係の補助金の活用にあたり、情報交換や相談への対応の中で、再生可能エネルギーの導入・活用 の提言を行う。	4	4	危機管理室	
5	国土強靱化実現のためのインフラ整備（再掲）	頻発する集中豪雨による水害等自然災害に対し、安全・安心の確保を実現するためのインフラ整備を実施する。	市内各地区における浸水被害低減対策のため、河川・水路改修や道水路嵩上げ工事を実施。 【R6年度整備】 河川改修等 4箇所 約400m	緊急自然災害防止対策事業債を継続して活用しながら財源を確保するとともに、関係者と協議・調整をしながら緊急性・必要性を考慮しつつ、効果的な河川や水路等の整備を行っていく。	3	4	建設課	台風などの大雨による河川事業の整備は大切。 →浸水被害低減対策のため、河川・水路改修や道水路嵩上げ工事を継続的に実施していきます。

※終了済みの取組

主な取組		実施内容	実施結果総括	最終年度評価	担当課
-	空間放射線の常時監視情報の共有	諏訪合同庁舎における常時監視結果を提供する。	毎週月曜日に1週間分の放射線量の情報をこども課及び教育総務課へ提供していた。東日本大震災福島第一原発の事故から12年が経過し、今後基準値を超える見込みがないため関係課への情報提供はR5年6月で終了した。取組は終了とするが、異常が認められる場合には速やかに情報共有を行う。 【実績】R4年度、R5年度異常値の検出なし	4	環境課

基本目標	Ⅲ 安心して快適な暮らしを守ろう
方針	9 快適でつるおいのあるまちをつくらう
取組の方向	①景観育成の推進 ②市街地緑化の推進 ③歴史的・文化的資源の保存と活用

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.44	3.44	3.44		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	景観育成関連計画の推進	「諏訪市都市計画マスタープラン」「諏訪市緑の基本計画」「諏訪市景観計画」の取組を推進する。	各種計画に基づく事業を実施し、併せて景観に関する周知や指導を実施した。	計画に沿って現状の把握を行うことで課題の整理等を行う。必要に応じて計画の見直しを実施し、終期までの計画の実現を目指す。	3	3	都市計画課	
2	まちなみ景観推進事業補助	市内で活動する市民等で構成される団体等が、沿道や水辺、緑地などにおいて樹木・花等の植栽やその管理にかかった経費の一部を補助。市民による景観づくりを推進する。	市民団体等による景観づくり活動に対し経費の一部を補助し、市民による景観づくりを推進することができた。 【補助実績】 5件228千円 事業費総額642千円	引き続き支援を継続していくが、活動している市民団体等が固定化されてきている現状から、新たな団体等の組織作りから活動するまでのサポートを検討する必要がある。	3	3	都市計画課	
3	屋外広告物に対する指導	新規設置や更新の際の申告漏れの無いよう、現状把握と広告物パトロールを実施。指導、対応に加え、手続きの促進を行う。	定期的なパトロールを実施し、適切な管理が行われていない広告物などに対して是正指導を行った。	今後もパトロールを実施し現状把握に努め、条例の基準を逸脱することがないように指導と対応をしていく。	4	4	都市計画課	
4	景観に対する意識啓発	景観条例と景観計画及び住民協定などの周知、建築等行為者への指導を実施する。	建築行為などに対して諏訪市の景観づくり基準を案内し、景観に対する周知と指導を行った。また、景観に関心のある市民組織に対し複数回の話し合いを実施し、意識を啓発した。	引き続き建築行為などに対して諏訪市の景観づくり基準を案内し、景観の保全・育成を図っていく。	4	4	都市計画課	
5	都市公園の維持管理	みどり豊かな都市公園と良好な景観形成のため、都市公園の適切な維持管理を行う。	会計年度任用職員や委託業務等により、都市公園として適切な維持管理が出来た。	会計年度任用職員の雇用について、今後も優秀な人材の確保に努めるとともに、委託化やP-PEIなど検討を進める。	3	3	都市計画課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	ケヤキ並木花いっぱい事業	民間団体による植栽整備等を支援することで、市内の緑化とともに快適な景観実現を推進する。	花いっぱい事業として定着をしている。区画を受け持つ方は継続して植栽や管理を行ってくれている。また、それぞれに特色があり見て楽しめるなどの評価をいただいている。【区画利用状況】 全46区画中40区画利用(空6区画)	管理担当者が決まらず空いている区画があり募集を継続しているが、空いている区画の管理に苦慮している。方策の検討が必要。	3	3	都市計画課	どこに区画があり、どのように管理担当を募集しているのか。また、管理担当の条件などはあるのか。 →並木通り沿いの植栽で、細かい区画については都市計画課内で閲覧可能となっています。責任をもって管理できる方や団体に借りしていただく必要があり、市内在住を条件としております。募集については、管理しやすい近隣住民にお声がけさせていただいていましたが、今後は広報すわなどで広く募集するなど募集の方法を検討していきたいと考えています。
7	緑化推進のための苗木配布	苗木の配布を行うことで、市街地の緑化を推進すると共に、快適な景観を実現する。	前年に苗木の樹種や本数の要望調査を行い、4月18日に諏訪湖イベントひろばにて公共施設及び各地区へ配布を行った。 【配布実績】 公共施設：7団体 225本 各地区：9地区 149本	来年以降も令和6年度と同程度の事業が行えるよう努め、市街地の緑化を推進し快適な景観が実現できるよう努めていく。	3	3	農林課	市街地や緑化を推進するために、継続して苗木の配布を行い、より多くの個人や団体の方に緑化推進に協力してもらうことが必要。 →今後も継続して苗木の配布を行い、身近な所から緑化を推進することにより、多くの方々に緑化の大切さを考え、協力していただくよう努めていきます。
8	歴史的、文化的資源の保存及び継承	歴史・文化的資源を保存すると共に、その価値を見える化し伝えることで、市民のシビックプライド醸成と共に観光資源としての活用につなげる。	既設の文化財説明板の維持や霧ヶ峰の天然記念物パトロールにおける植生保護や見学ルートの案内板設置を通じて、文化財の価値や重要性について啓発を行った。また一部の文化財で音声ガイドを導入し、文化遺産の価値をより理解しやすくする取組を試みた。	老朽化が進んだ説明板の把握と計画的な更新を進める必要がある。また新規設置の要望も出ているため対応を検討する。R6年度に取組を行った音声ガイドについて、一定の効果が見込めるためさらに導入の拡大を目指したい。	4	4	生涯学習課	
9	空き家、空き地の適正管理推進	R6年度から任用した地域おこし協力隊の協力を得ながら、利活用可能な空き家の掘り起こしや空き家見学会・相談会等を実施する。	R7年3月に（一社）全国古民家再生協会長野県連合会と「空き家及び古民家等の活用に関する連携協定」を締結。地域おこし協力隊（空き家の掘り起こしと利活用）を任用し、利活用可能な空き家の掘り起こしや空き家見学会・相談会等を実施。 【実績】 ・空き家の掘り起こし件数：108件 ・空き家見学会・相談会の参加者：延べ21名 ・空き家に関するロビー展開催	掘り起こしによる空き家バンク・マッチングサービスの登録数を増加させると共に、空き家需要についても調査し、利活用や再生に繋げる取り組みを推進する必要がある。	4	4	都市計画課	

基本目標	Ⅳ ごみを減らして循環型社会を実現しよう 資源大量消費型の社会から、資源循環型の社会へ転換するための取組を進めます。
------	--

●基本目標Ⅳに関連するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
ごみリサイクル率	目標値	23.1%	22.9%	22.5%	22.2%	22.0%
	実績値	18.1%	18.3%	18.7%		
	達成度	78.4%	79.9%	83.1%		
燃やすごみ排出量	目標値	11,442t以下	11,479t以下	11,471t以下	11,531t以下	11,444t以下
	実績値	12,147t	11,662t	11,469t		
	達成度	93.8%	98.4%	100.0%		

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.76	3.82	3.88		
10 資源を有効に活用しよう	3.76	3.82	3.88		

考察	<p>■不法投棄については、不法投棄の可燃ごみ不燃ごみ共に前年度より回収量が減っており、市民の意識が高まっていることがうかがえる。しかし、まだ相当数のごみが不法投棄されていることから、引き続きの対策が必要である。</p> <p>■資源物は独自に収集している店舗もあり、常設の資源物ステーションもあるため、サンデーリサイクルイベントはR6年度をもって終了とすることになった。サンデーリサイクルイベントについて、既に同じような取り組みをしている場所が増えている中、市で同様のイベントを開催することについて疑問があるとの意見もあったが、地域の店舗等で資源物の回収が進んでいる事の表れであるともいえる。</p>
----	---

意見の対象	意見	回答
基本目標4方針10	当社でも市内のゴミ拾い（プロキング）を実施して会社周辺の国道、市道をきれいにしているがゴミの処理が持ち出しで処理している状態。市で丸ごと引き取ってくれないか検討してほしい。	収集したごみを市で引き取ることは難しいですが、湖周クリーンセンターでゴミを無料で回収することができるボランティア袋の提供など協力できることはあるかと思えます。活動の内容等確認させて頂きながら、ご協力できることを相談させて頂きたいです。

基本目標	IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう
方針	10 資源を有効に活用しよう
取組の方向	①4Rの一層の推進 ②廃棄物の適正処理の推進 ③ポイ捨て・不法投棄対策

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.76	3.82	3.88		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	給水スポット設置	公共施設への給水スポット設置によりマイボトル活動を推進し、循環型社会及び脱炭素社会実現に向けた意識啓発を実施。	新たに1施設に給水スポットを設置。また、すわっチャオ給水スポットに設置した流量計で給水量を計測し、給水量年間6,000ℓから計算、500mlペットボトル換算で12,000本分の削減、CO2排出量換算で1.3tが排出抑制されていることを発信することで意識啓発に繋がった。 【設置施設】 諏訪市役所、駅前交流テラスすわっチャオ、霧ヶ峰自然保護センター、諏訪市観光案内所、諏訪湖間欠泉センター、諏訪市保健センター、諏訪市総合福祉センター (以下追加施設) しんきん諏訪湖スタジアム	マイボトル活動は市民誰もが取り組みやすいことから、意識醸成の取組を事業者等に拡大していくことがより効果的。引き続き効果的かつ事業者負担の少ない取組方法を検討していく。	5	5	シゼロイカ推進室	市役所、すわっチャオ等に設置の給水スポットがとても良い。 →ご意見、ありがとうございます。引き続き推進して参ります。
2	ペーパーリサイクル事業	乾式オフィス製紙機「ペーパーラボ」を使用し、行政事務において発生した使用済み紙を庁内で再生。再生紙を行政事務の他、意識醸成活動等に活用する。	投入枚数 40.3万枚 再生枚数 24.4万枚 (A4普通紙換算 29.8万枚) 上諏訪小「ゼロカーボン×紙再生プロジェクト」への協力。ゼロカーボンシティ推進室に協力する形で、上諏訪小で集めた使用済みコピー用紙を再生。児童、家庭に対する脱炭素意識の醸成を図った。	庁内文書のペーパーレス化が進む中、ペーパーラボに投入する使用済みコピー用紙の確保が課題である。ペーパーラボが令和8年度にリースアップするので、スキームも含めた今後の展開について検討が必要。	3	3	総務課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
3	ごみステーションにおける分別指導	各地区の衛生役員による住民のごみ出し分別指導を実施し、正しい分別の実現と住民自らの分別意識を向上させる。	各地区においては、ステーションへの立会等自主的な取組が行われている。この他に職員が以下のとおり分別指導を実施した。 【職員実施内容】 実施期間：令和6年5月～7月 実施日数：10日 実施ごみステーション数：72か所 分別指導内容：資源化の促進、地区名記入依頼、証紙シール貼付確認等	紙類、プラスチック類の混在が多数あった。ステーションによって排出マナーの違いが見られた。今後も衛生嘱託員と連携しながら分別意識の向上を図る。	4	4	環境課	ステーションによって排出マナーの違いが見られたとあるが、どのような違いがあったのか。また、分別において課題となっていることがあれば教えてほしい。 →アパートが多いステーションは袋への地区名記入率が低く、紙類やプラスチック類も多数混在している傾向がみられました。そうした点を改善していくことが課題だと考えています。 4月からフィルム状のプラスチックも回収対象となったことで、資源ごみの回収ネット「その他プラスチック」が不足しているように思われる。また、ネット自体も老朽化しているものが見受けられる。 →4月のスタート時に全てのごみステーションで「その他のプラスチック」の網カゴを1台増加していますが、地区より足りないとの申し出があれば、次回の資源物収集日から網かごを増やすなどの対応をとってきています。また、古いものについても状態を確認し、使用不可と思われるものについては新しいものへ順次更新をしているところです。
4	不法投棄抑制のための啓発資材設置及び配布	不法投棄を抑制するため、「不法投棄禁止看板」及び「ごみポイ捨て禁止のぼり旗」を設置並びに希望者に対して配布する。	市民や地域の環境美化推進委員に看板やのぼり旗の配布を行った。 【配布実績】 看板21枚/のぼり旗181枚	今後も希望者には配布し、不法投棄やポイ捨ての抑制に努めていくとともに、他の取組を含めて環境への意識醸成を実施していく。 公有地の不法投棄常習場所への啓発資材の設置を進めていく。	4	4	環境課	
5	諏訪市一斉清掃の実施	春秋に市内全域において一斉清掃を実施。生活環境の改善とともに、参加者の意識醸成を図る。また、民間企業と連携した取組も実施する。	諏訪湖畔・各地区等で実施した。春は5/26、秋は10/20に実施した。 春の一斉清掃では第一生命と連携し、アプリを使って清掃参加者の歩数を寄附金に換算し、地域猫活動団体に寄附する取組を行った。秋の一斉清掃では、応募写真25枚から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」の3点を表彰した。 【実績】 春：21団体440名参加（諏訪湖畔） 秋：18団体433名参加（諏訪湖畔）	今後も春・秋の開催を継続し、民間企業や地区の方とも協力しながら環境美化活動を推進する。	4	4	環境課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	散乱ごみのない美しいまちづくり事業（再掲）	霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心に不法投棄されたごみの回収作業を実施し、不法投棄の連鎖発生を阻止する。	年75回のパトロールにより、不法投棄されたごみの回収を実施した。 【回収量】 可燃ごみ288.5kg（昨年比-107.5kg） 不燃ごみ98.2kg（昨年比-27.2）	引き続き不法投棄の多い霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心にパトロールを実施する。引き続き広報すわ特集記事を掲載予定。また、メディアの活用なども含め、市民の不法投棄への関心を高め、環境美化につながる取組を実施する。	4	4	環境課	
7	保育園、小中学校の生ごみ別回収	保育園、小中学校から排出される生ごみを別回収し、生ごみの減量化、堆肥化を推進する。	回収した生ごみは全量堆肥化した。 【R6実績】 収集日：284日 収集量（小中学校）：30.203t 収集量（保育園）：13.237t	食べ残しを減らすよう呼びかけを行ったり、メニューの工夫を依頼したりするなど、引き続き生ごみの減量化を推進していく。	4	4	環境課	
8	生ごみ処理機購入補助	生ごみ処理機の購入費の補助を行うことで、燃やすごみ排出量の削減を実現する。	補助制度利用は好調である。 【R6補助金交付申請者】47名 【R6補助金交付額】1,468,600円	補助制度を継続し、家庭から出る生ごみのさらなる減量を推進する。	5	5	環境課	
9	草類堆肥化及び剪定木のチップ化推進	草類等を焼却処分するのではなく、新たな価値として有効活用することで、燃やすごみ排出量の削減を実現する。	堆肥化及びチップ化により資源の有効活用ができており、燃やすごみ量を抑制することができている。 【草類の堆肥化】 令和6年度実績 882t 【剪定木等のチップ化】 令和6年度実績 291t	【草類の堆肥化】 草類の堆肥化はコストが高いことから、新たな施策の検討が必要。 【剪定木等のチップ化】 チップの活用方法などを市民へPRし、さらなる活用を促す。	4	4	環境課	
10	生ごみ処理機の利用推進（さざ波の家）	さざ波の家に設置された大型生ごみ処理機の活用を推進し、燃やすごみ排出量の削減を実現する。	R6年度生ごみ処理機の利用者は増加した。 【R6新規利用者】 2名	導入から年数が経過し、時々不具合が発生している。保守期限も令和8年度末のため、今後について検討していく。	3	3	環境課	
11	古紙リサイクル事業	新聞紙、雑誌・書籍、ダンボール、紙パック、その他の紙の分別を推進し、紙類の資源化の向上を図る。	トイレットペーパーと古紙を交換する「古紙回収イベント」や、大型細断機による機密文書資源化を実施した。 【古紙回収イベント実績】 実施回数：3回 収集量（その他の紙）：1,937kg 収集量（紙パック）：27,927枚 【機密文書搬入量】 処理量：42.1t	燃やすごみの袋の中に紙類がまだ多く出されているため、古紙回収イベントなどを継続的に実施し、紙類分別の意識醸成を図る。	4	4	環境課	
12	多量排出事業者届出制度の運用	多量排出事業者届出の提出を求めることにより、事業者の計画的な取組を把握し、事業系一般廃棄物の削減を推進する。	【令和6年度多量排出事業者】 年間で18t以上の事業系一般廃棄物の排出事業者：15社（増減なし）	コロナ禍が終了し経済活動も活発になってきているため、多量排出事業者に対しては、訪問等によりさらなる事業系ごみの減量を喚起していく。	3	3	環境課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
13	24時間資源物回収拠点 場所開設	通常収集日の排出が難しい市民に対応し、正しい分別排出を推進する。	資源物常設ステーションとして、林金属工業、信州タケエイ、南信美装で受け入れている。 そのうち下記は24時間資源物排出可能となっている。 ・林金属工業：紙類 ・信州タケエイ：紙類、ペットボトル、缶類	市民への積極的な周知を展開し、利便性の向上を図りたい。	4	4	環境課	信州タケエイでの資源物の24時間回収はとても助かる。 →住民の利便性向上に直結した重要な取組みだと思っておりますので、今後も継続していきたいと考えています。 一方で、夜間に不適合物が排出された事例もあるので、改めて適切な分別を呼び掛けていきます。
14	サンデーサイクルの実施	日曜日に市内スーパーにて分別回収を実施。利便性からリサイクル意欲を向上させるとともに、イベント実施によるアピールを行う。	収集量、持込人数とも減少した。 【R6年度実績】 実施日：6/2、7/7、8/4、9/8 収集量：115kg 持込人数：129人 実施店舗：西友城南店、西友湖南店、いちやまマート諏訪店、オギノ諏訪店	現在、独自に収集している店舗もあり、また常設の資源物ステーションがあるため、本イベントはR6年度をもって終了とし、R7年度は新たなイベントを予定する。	3	3	環境課	
15	広域でのゴミ削減	湖周広域での燃やすごみ協働処理を行うと共に、その量の削減を広域連携により実施する。	湖周行政事務組合と構成市町で定期的に情報交換を行い、また各市町でのごみ減量の取組により、燃やすごみを削減することができた。 【R6年度燃やすごみ量】 11,469t（R5年度比98.3%）	湖周地区全体の燃やすごみ量は減少しており、当市の燃やすごみ量も減少している。 ごみ減量が頭打ちにならないよう、さらなる減量に向けた施策を検討し、推進していく必要がある。	4	4	環境課	諏訪市も燃やすゴミは減少しているとのこと、大変良いと思う。減少傾向は今年4月より軟質のプラスチックは「その他のプラスチック」での処理になり、今後更に減少につながるのか。 →今年4月からの軟質プラスチック回収により、燃えるごみ削減効果がでていまして、更なるごみ削減につながるよう住民への啓発に努めていきます。 プラスチックのリサイクルにおけるリサイクル率と今後の上昇に向けた取り組みについて伺いたい。 →ペットボトルやトレーなどのプラスチック類のリサイクル率は算出できませんが、令和6年度において321tを回収し、資源化を行っています。なお、燃やすごみの削減やプラスチック類の更なる資源化を推進するため、本年4月から軟質プラスチックの回収を開始しているところです。 上田市におけるおむつのリサイクル事業など諏訪市で取り組めないのかについて伺いたい。 →使用済みおむつを効率的かつ衛生的に分別回収する仕組みづくりが課題ですので、今後そうした課題解決に向けた研究が必要だと考えています。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
16	フードドライブ等による食品ロスの削減	廃棄してしまう食品を有効活用することで、ごみの量を削減すると共に、食料の確保に困る方の支援を実現する。	市主催フードドライブの実施 開催日 6月21日、12月11日 場所 諏訪市役所ロビー 結果 寄贈者数：43名 数量：600点 重量：226kg ほかに民間団体主催の野外イベント内（土曜日開催）で計2回実施。（7/20、8/17）、また県主催のフードドライブに協力。（1回）	「生活に困窮している家庭への支援」及び「食品ロスの削減」の観点から、市主催で「フードドライブ」を継続実施するとともに、他の団体・機関等が開催できるように水平的な展開についても推進する。	4	3	社会福祉課	自分はこども食堂に携わっている。フードドライブ等の有効活用は、現在実施しているこども食堂にて配布されたり、活用しているのでたいへん有意義。 →引き続き、まいさぼ諏訪市・こども課と連携して実施してまいります。 フードドライブに協力しているが、寄付するものを購入して持ち込んでくださった人がいた。本来は各家庭で廃棄されてしまう食材をなくしつつ、必要な所に食材を届けることが目的。フードドライブの目的を分かりやすく周知し、各家庭や事業所の食材を定期的に見直す機会を作ってもらわなければならないか。 →フードドライブの目的としては、食品ロスの削減の観点に加えて、生活困窮家庭への支援を掲げております。社会福祉課としては、御寄附いただける方の意思を尊重して、健やかな子どもの成長への支援等に最大限活用してまいります。 フードドライブ自体が市民全体にまだ浸透していないのではないかとということがあり、女性会では昨年度、並木でコンサートという市民の目につきやすい場所で実施した。諏訪市でも今後実施場所を工夫することで、より多くの市民に伝わるのではないかと。 →女性会の取組に関しては感謝申し上げます。当市においては、行政が先行的にフードドライブを始めましたが、多様な実施主体が求められるため、他の団体・機関等が開催できるように水平的な展開についても推進します。
17	放置自転車等の対策	駅周辺を中心に放置自転車の把握及び撤去を行う。	【活動実績】 放置自転車の実態調査：1回/月 放置自転車の撤去：2回/年 撤去台数：12台 放置自転車防止の啓発活動：2回/年	自転車の管理指導と放置自転車の撤去を図る。また、歩道、自転車道、駐輪場の整備を関係機関と協力し検討する。	4	4	建設課	

基本目標	Ⅴ みんなで学び行動しよう 環境について知り、学び、そしてそれぞれが、また連携して行動し、より良い諏訪市の環境づくりに取り組みます。
------	--

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.75	3.86	3.93		
1 1 環境教育を推進しよう	3.50	3.71	3.86		
1 2 協働による環境保全活動を推進しよう	4.00	4.00	4.00		

考察	<p>■保育園での環境紙芝居の上映、小中学校での環境教育は、引き続き積極的に実施。今後も引き続き子ども達への啓発は実施していく。</p> <p>■くらしいきエコフェスタにおける、大学生を講師として児童向けの脱炭素イベントは、R6年度はメイン講師及び内容検討を大学院生及び大学生が主導する方式とした。児童への環境教育をすると同時にイベント企画運営という院生学生の貴重な体験の場を作ることができた。市民の脱炭素意識醸成とともに学生が地元人材として地域に繋がるイベントであることから、大学と連携した取組を継続していく。</p> <p>■小中学校での「ゼロカーボン×紙再生プロジェクト」と題したコンテンツを造成。カードゲーム「2025カーボンニュートラル」を実施し、ゼロカーボンの意味や価値等を実感するとともに、児童自らが全校に呼びかけ古紙を回収し、ペーパーラボを活用した古紙の再生をするというロールモデルを構築した。今後はそれらのコンテンツを含め、学校での環境教育の実施を促していく。</p>
----	---

基本目標	V みんなで学び行動しよう
方針	11 環境教育を推進しよう
取組の方向	①積極的な情報発信 ②様々な学習機会の提供

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.50	3.71	3.86		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	広報すわでの情報発信	広報すわ裏表紙に脱炭素コラムを毎月掲載し、情報提供と意識啓発を図る。	脱炭素コラムについてはYouTube動画と連動させ、気軽に観れるものとした。 【掲載履歴（特集のみ）】 脱炭素コラム…計6回（隔月・内動画連動4回）、ゼロカーボン特集(6月号2ページ)	広報すわは市内全世帯にポスティングされるというメリットがある一方で、全員がゼロカーボンに興味を持っているわけではない。読んでもらうためには掲載することに満足せず、相手に届く掲載内容の検討を継続する。なお、R7年度については1月にゼロカーボンの基礎を気軽に知ることのできる内容で特集記事の掲載をする予定。	4	4	シテロイカー推進室	
2	環境紙芝居	市内公立保育園において環境をテーマにした紙芝居の読み聞かせを実施する。年度ごと紙芝居のテーマを一つに統一して実施し、環境への関心の入口をつくる。 また、紙芝居のテーマの塗り絵を配布し、家庭で保護者と共に遊ぶことで保護者への啓発へつなげる。	市内全園にて実施。R6年度は「省エネ」にテーマを統一し、園児でも分かりやすく読み聞かせを行った。 【実施園数】 13園/14回	紙芝居により、園児への啓発はもちろん、塗り絵を持ち帰り家庭でも話してもらうことにより、家族への啓発にもなる。今後も継続して取り組んでいく。	4	4	環境課	
3	出前講座の実施	ごみの分別方法、環境保全、脱炭素社会実現をテーマに職員が区、団体、学校、企業等に訪問し、取組内容や仕組みについてを直接説明する。	ごみの分別について区へ出前講座を実施。また、上諏訪小学校ではカードゲーム「2025カーボンニュートラル」を実施し、その後「ゼロカーボン×紙再生プロジェクト」という児童の取組のサポートを行った。 【テーマ別実施回数】 環境衛生2回、脱炭素2回	区へ出前講座は、ごみ分別の理解を深めるために、今後も継続して取り組んでいく。 学校での出前講座は、その後の学習につながる要素であることから、先生との打合せを行い内容をアレンジして実施していく。	3	3	環境課	非常に良い取組み。企業をもっと巻き込んでいいかもしれない。関心がある企業は多いはず。 →ありがとうございます。企業でも取り入れていただけるよう検討していきたいと思います。 企業向けの出前講座について、実施可能なプログラムのリスト等があると企画を検討しやすいと思います。 →講座の内容を限定しないことにより、依頼者と相談して説明内容を柔軟に決めていくことができると考えております。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
4	行政の意識向上	様々な事業の実施において環境への意識を持った取組を推進するために、職員に対する意識醸成研修等を実施する。	各種研修において脱炭素に関する説明を実施。代表例としてSDGsを題材に分野間の連携を視野に入れた「SDGsによる職員力向上研修」において「2025カーボンニュートラルカードゲーム」を実施。各分野における脱炭素の重要性を学習した。 【研修参加者】 SDGs研修30名、新任係長研修6名、新規採用職員研修25名 ※その他、庁内WEB掲示板において取組周知等実施。	R7年度からはカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を職員向けに実施。また、対象を係長未満の若手職員とすることで、ゼロカーボンへの知識に留まらない将来を支える視野の広さや連携構築意識の情勢を図る。	4	4	シゼロイカ推し進ボ室ン	非常に良い取組み。企業をもっと巻き込んでいいかもしれない。関心がある企業は多いはず。 →小学校や環境推進会議、市若手職員で実施したカードゲームの様子を発信することで、企業でも取り入れてもらえるようPRをしていきたいと存じます。
5	小中学校での環境教育（再掲）	小中学校の総合の学習の時間を中心に、脱炭素要素を導入し、児童生徒の地球温暖化等に関する意識向上を図る。また、わかりやすく導入しやすいコンテンツ取り揃え、教職員に展開する。	代表事例として、上諏訪小学校児童会整美委員会のゼロカーボン活動を「ゼロカーボン×紙再生プロジェクト」と題したコンテンツを造成。カードゲーム「2025カーボンニュートラル」を公認ファシリテーターを招いて実施し、ゼロカーボンの意味や価値等を実感するとともに、児童自らが全校に呼びかけ古紙を回収し、ペーパーラボを活用した再生をするというロールモデルを構築した。 また、これらコンテンツを取りまとめた学校教諭向け説明資料を作成し、各校に先行して展開した。 【実施結果】 教諭への説明…全10校、小学校での取組支援…1校、すわ未来創造子どもゆめプロジェクトでの説明…1回（その他アドバイス等での参加あり）、教諭向けポータルサイトへの資料掲載	カードゲーム「2050カーボンニュートラル」、ゼロカーボン×紙再生プロジェクト、ゼロカーボン動画等のコンテンツが複数揃ったことから、令和6年度に作成した資料や事例を基に、学校での実施を促していく。	4	3	シゼロイカ推し進ボ室ン	
6	森林学習の実施と充実（再掲）	講座等を活用し、諏訪市が貴重な自然資源を有していることを伝える。 また、効果的な森林学習実施につながるよう、森林体験学習館で使用する道具の更新を行う。	「自然と遊ぶつどい」と題し、体験イベントや講座を実施。森林体験学習館を起点とした大見山散策、周辺で採取した木の葉や間伐材を使用したものづくりなどを通じて自然資源の魅力発信につながった。また、より充実した工作体験ができるよう穴あけ、切断、研磨用機材を整備した。	森林体験学習館の魅力をどのように発信するかが重要。インスタグラム（公民館所管）を活用し、また公民館において工作体験や作品展示及び紹介展示を行うなど、引き続きPRIに努め森林体験学習館の利用者増を図る。	4	4	生涯学習課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
7	意識醸成イベント及び講演会実施（再掲）	くらしいきいきエコフェスタにおいて、大学生を講師として児童向けの脱炭素イベントを開催し、意識醸成を図る。	公立諏訪東京理科大学院生及び学生を講師に、電池をテーマにしての親子実験教室を開催した。 【実施結果（参加者）】 市内小学校親子13組 講師参加大学院生及び大学生15名	年齢の近い大学生及び院生が講師となることで児童にとって親しみやすく楽しい脱炭素講座になった。また、今回はメイン講師及び内容検討を大学院生及び大学生が主導する方式としたため、イベント企画運営という院生学生の貴重な体験にもなっている。一方で、実施前にゼロカーボンの意味について講師がより認識する機会を設けるといった工夫も必要と感じている。イベント自体は、市民の脱炭素意識醸成とともに学生が地元人材として地域に繋がるイベントであることから、大学と連携した取組を継続していく。	4	4	シゼロイカ推進室	

基本目標	V みんなで学び行動しよう
方針	12 協働による環境保全活動を推進しよう
取組の方向	①できるところから行動 ②多様な主体との連携

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	4.00	4.00	4.00		

【評価点】
5…十分取り組まれている 【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている 【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている 【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない 【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない 【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	連携取組体制の構築	同じ社会課題解決を考える企業や団体と連携することにより、取組の加速化を実現する。	R5年度末に連携協定を締結したサントリーグループと市内で回収した使用済みペットボトルを新品のペットボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」水平リサイクルの取り組みを開始。	引き続き企業や団体と連携を検討。また、協定締結先との継続的な取組を検討し実施していく。	4	4	ゼ・ロカ環境課	
2	ESG債券への投資	資金の一部を運用し、グリーンボンド等社会課題解決につながる事業に限定して発行される債券を購入する。	【会計課】 長野県のグリーンボンドの趣旨に賛同し、債券を購入。 購入額 2千万円 【水道局】 静岡県のグリーンボンドの主旨に賛同し、債券を購入。 購入額 1億円	引き続き、各都道府県が進める環境施策等と協働することを目的とし、グリーンボンドへの投資を検討する。	4	4	会計課・水道局	ESG債権とは何か、もう少し市民が理解できるよう広報活動をしっかりしてほしい。 →グリーンボンド購入については市ホームページにて周知している他、プレスリリースを通じて新聞紙面により市民に広報を行っております。債権による投資を広く市民に理解してもらうことについては難しさを感じていますが、購入債券の資金用途を含めて、わかりやすい広報に努めます。